

## 設置の趣旨等を記載した書類（目次）

1. 設置の趣旨及び必要性	3
1) 学校法人順天堂の沿革と建学の理念	3
2) 設置の趣旨	3
3) 入学定員の設定	8
4) 教育研究上の目的と研究対象とする学問分野	8
5) 養成する人材と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	9
2. 学部・学科等の特色	10
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	11
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	12
1) 本学部の教育目的と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	12
2) 教育課程の編成の考え方と教育課程の編成	13
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	21
1) 教育方法	21
2) 履修指導方法	23
3) 卒業要件	24
6. インターンシップ実習の具体的な計画	25
7. 入学者選抜の概要	28
1) アドミッション・ポリシー	28
2) 入学者選抜の概要	29
3) 選抜体制	32
8. 教員組織の編成の考え方及び特色	32
9. 施設、設備等の整備計画	36
1) 校地、運動場の整備計画	36
2) 校舎等施設の整備計画	36
3) 図書等の資料及び学術メディアセンターの整備計画	39

10. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	40
11. 管理運営	41
1) 健康データサイエンス学部教授会等の組織及び事務組織について	41
2) 本学部の管理運営方法	42
12. 自己点検・評価	43
1) 実施方法、実施体制、結果の活用	43
2) 評価項目	44
3) 結果の公表	44
4) 認証評価	44
13. 情報の公表	45
1) 公表の方針・考え方	45
2) 公表の方法	45
3) Webサイトによる基本情報の公開	45
4) Webサイト、SNS、プレスリリースの積極的活用	49
5) 定期的に刊行している発行物	49
6) 講演会・公開講座等の開催	50
14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	50
15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	54
1) 教育課程内の取組について	54
2) 教育課程外の取組について	54
3) 適切な体制の整備について	55

## 設置の趣旨等を記載した書類

### 1. 設置の趣旨及び必要性

#### 1) 学校法人順天堂の沿革と建学の理念

学校法人順天堂は、1838（天保9）年、学祖・佐藤泰然が江戸・薬研堀に開設した西洋医学塾に端を発し、その後、時代の変遷を先人達の熱意と使命感をもって乗り越え、日本の医学・医療分野の発展に指導的な立場で貢献してきた。

現在順天堂大学（以下「本学」という。）は、学部として医学部、スポーツ健康科学部、医療看護学部、保健看護学部、国際教養学部、保健医療学部の6学部を設置し、本年4月に医療科学部を開設する予定である。大学院は医学研究科（博士課程、修士課程）、スポーツ健康科学研究科（博士前期課程・後期課程）、医療看護学研究科（博士前期課程・後期課程）の3研究科を開設し、高度な専門教育と研究を担う中核となっている。

医学部附属病院群は、本院としての機能を持つ順天堂医院（東京都）のほか、静岡病院（静岡県）、浦安病院（千葉県）、順天堂越谷病院（埼玉県）、順天堂東京江東高齢者医療センター（東京都）及び練馬病院（東京都）を設置し、6病院総病床数3,552床を擁している。6附属病院は、高度な先進医療から、高齢者医療や精神医療等をカバーし、各附属病院の立地する地域の特性に応じた地域医療の充実を図り、国民の医療ニーズに幅広く対応している。

本学の学是は「仁」である。「人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心。これ即ち仁」。また理念を「不断前進」としている。他者を思いやり理解する心・感性を持ち、現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続ける人材を育成していくことを目指している。この学是と理念は、自由な競争環境にこそ活気ある教育研究活動が展開されるという建学の精神を伝承し、全くといってよい程に学閥がなく、優秀であれば国籍、性別、出身校を問わず任用するという学風「三無主義」を確立している。本学は「健康総合大学・大学院大学」として、医学・看護・保健医療・スポーツ・国際社会を担う人材を育成し、専門性を活かした教育研究臨床活動を展開して人々の生命や健康を支え、社会の発展と福祉の向上に貢献することを目指している。

#### 2) 設置の趣旨

##### (1) 設置の背景

情報通信技術の飛躍的な発展に伴い、経済社会のあらゆる分野・領域において、膨大かつ多種多様・複雑なデータが高速に生成され、その蓄積・集積が進みデータ大流通時代が到来したといわれている。こうした膨大かつ多種多様・複雑なデータである「ビッグデータ」を有効活用することが可能となった背景には、IT技術の加速的な成

長がある。大量のデータを格納しハンドリングするためには、規模の大きなコンピュータとストレージを用意しなければならないが、大量のデータを格納可能なデータベースやクラウドコンピューティングサービスが開発され、データの保持・保管がより低コストで行えるようになり、さらに CPU や GPU 等計算処理する高性能なマシンパワーも指数関数的に向上し、人工知能等を使ったデータ分析技術も高度化している。これらの要因を基に激増する巨大なデータ群であるビッグデータを整理、分析、可視化し、実践や研究の場で有効活用するためにデータサイエンスが求められ、データサイエンスの経済社会における応用範囲は広がっている。

データサイエンスの主な領域としては、①大規模データを抽出・加工して使える形に整え、収集したデータを蓄積・統合して分析に適した環境やシステムを構築するための専門知識と技術であるデータエンジニアリング、②データを処理し、データの分析や解析を行う手法やデータからパターンや法則を抽出するとともに、集計・グラフ化等によりデータの可視化や統計学的手法によりモデル構築等を行うデータアナリシス、③上記①②に加えデータサイエンスに対する社会的要請としては、社会全般に係わる分野の専門知識を基に、データを解析した結果により得られた示唆や知見により課題解決策を提言したり、データソースから得られた情報を磨き上げ、新たな価値創造を行うことといわれている。

データサイエンスの重要性が高まるのは、デジタル化や IT インフラの整備と合わせて、電子化された高度なデータを分析・活用することにより、これまでとは別の角度から課題を見つけることが可能となり、経営や生活に役立つ新たな知見を導き出し、具体的な課題解決につなげるとともに、現在のサービスに新たな価値を付与させたり、新たな需要を掘り起こしたりして、経済成長やイノベーションを促進することが期待されていることにある。

## (2) 設置の必要性

### ①データサイエンス人材に対する社会ニーズの高まりと教育の必要性

ビッグデータを有効活用する環境整備が進むなかで、大きな課題がビッグデータを実務に応用できる知識やノウハウを身につけたデータサイエンススキルを有した人材—データサイエンス人材の養成確保といわれる。日本は元来 IT 人材そのものが不足しており、ビッグデータを実務に応用できる専門知識と技術を身につけたデータサイエンス人材の養成は社会的課題といえる。政府による「第 5 期科学技術基本計画（平成 28 年 1 月）」（資料 1）で謳われた超スマート社会（Society5.0）では、データサイエンスを活用して新しい価値やサービスを創出できる人材の強化を図るとされ、「未来投資戦略 2018—「Society5.0」 「データ駆動型社会」 への変革—（平成 30 年 6 月）」（資料 2）、中央教育審議会による「2040 年に向けた高等教育のグランドデザ

イン（答申）（平成30年11月）」（資料3）においてもデータサイエンスの技術を具備した人材の育成が求められている。2014年に日本学術会議情報学委員会 E-サイエンス・データ中心科学分科会がまとめた提言書「ビッグデータ時代に対応する人材の育成」（資料4）によれば、世界規模で不足するデータサイエンス人材の育成は急務であり、そのため高等教育においてデータ中心科学を専門とする学科等の設置が必要であると説かれている。データサイエンス人材には、実社会の問題に対して最新の手法を駆使してデータの整理・分析・解析を行い、データの背景にあるルールやアルゴリズム等を見つけて課題を発見し、解決策を立案するとともに、その結果から将来の予測を想定し、新たな価値やサービスを創り出す能力が求められることから、データ分析や統計解析分野の素養と AI、機械学習等の最新の手法に関する専門知識や技術が必要となるとともに、分析対象となる業界知識や事業内容、ビジネスモデルの他、市場トレンドや競合の状況等、個別具体的な分野に固有の諸現象に対する専門知識や実務的な経験も求められる。従ってその育成には多大のコストと時間を要する。

大学におけるデータサイエンス人材養成の教育課程として、2017年4月開設の滋賀大学データサイエンス学部を嚆矢として横浜市立大学データサイエンス学部（2018年4月開設）、武蔵野大学データサイエンス学部（2019年4月開設）と続き、2021年4月立正大学データサイエンス学部が開設されている。今後ともデータサイエンス系学部学科の開設の動きがある。先行する大学学部は広くビジネス分野においてデータサイエンスの知識、技術を応用して新たな価値創造に貢献する人材養成を目的としている。鈴鹿医療科学大学は医用工学部医療健康データサイエンス学科を開設し、医療健康分野で活躍するデータサイエンス人材の養成を目指している。データサイエンスの対象となる領域は幅広く、今後は多様なタイプのデータサイエンス人材が数多く必要とされている。一口にデータサイエンス人材といってもどのような知識や技術に力点をおくかによって様々なタイプがあり、その活躍する場も異なってくる。本学は、医学部をはじめ看護師、理学療法士、診療放射線技師等のコメディカル職者を養成する複数の学部及びスポーツ健康科学部において医学・保健医療・スポーツの専門知識を学修し、主体的に課題を発見し、解決できる人材の育成を具現化してきた。本学は健康・医療・スポーツ領域での教育研究・臨床実績に基づき、健康・医療・保健・スポーツ領域に係るデータを集積・蓄積し豊富に保有していることから、本学の強みとリソースを活かして、数理統計技術とコンピュータサイエンスを基盤としてデータサイエンスの専門知識と技術を体系的に教育し、ビッグデータの応用分野として期待されている健康・医療・スポーツ領域で活躍するデータサイエンス人材（健康データサイエンス人材）を養成する学部として健康データサイエンス学部（以下「本学部」という。）を設置する。

## ②健康・医療・スポーツ領域に係るデータサイエンス人材の育成の必要性

我が国の保健医療分野は、超高齢社会を迎え、幾多の課題に直面している。健康寿命の延長、質の高いヘルスサービスの効率的な提供等のため、健康段階から医療、介護、終末迄を含める個人ライフコース全般に亘る「次世代ヘルスケア・システム」の構築が目指されている。ヘルスケア・システムの次世代の基盤を支えるためには、データやICT等の技術革新を積極的に導入・フル活用し、個々のニーズに即して各種の健康データや診療データ等個人を単位としたヘルスビッグデータの整備と利活用が不可欠となる。今後データの収集・整理・分析等において健康・医療・介護等の領域に関連する公民あがて多様な層の広いレベルをカバーする実務家がヘルスデータに関わることになる。そのため法整備や健康・医療情報データベース等の構築等というハード面に加えて人材の育成も必要となってくる。「社会保障制度改革国民会議報告書（平成25年8月）」（資料5）では「社会保障制度の機能強化のためには、ICTの活用や医療データの整備等社会保障の重点化・効率化につながるハード面の整備と、それを活用できる人材の育成等ソフト面の整備が重要である」と指摘している。平成26年度からは厚生労働省が「データヘルス計画」（資料6）と呼ばれる事業がスタートした。これは国の成長戦略として医療情報（レセプト）や健診結果の情報等のデータ分析に基づき、PDCAサイクルで効率的・効果的な保健事業を実施することにより健康増進につなげようという取り組みである。電子カルテ等から集約した患者の診療に係わるデータを利用して新薬の開発や検証に生かす取り組みも進んでおり、患者の全ゲノム解析が低いコストにより実施できるようになり、症状やデータから病気になる確率を判定したり、健康上のリスクとなる因子を発見することにより病気を未然に防ぐ取り組みも可能となってきた。データ活用基盤を構築・運営する人材や各種臨床データ、生体情報、疾患、患者レジストリデータ等の医療情報を利活用できる人材の育成を充実させることが求められている。医療領域のデータは要配慮個人情報を含み慎重かつ安全な取り扱いが必要であり、専門性の高いデータが取り扱われていることから医療に関する一定程度の知識を備えていることが望まれる。健康・医療領域でデータサイエンスを実践するためにはデータサイエンスに係る専門知識や技術に加えて、背景となる健康・医療領域固有の知識やノウハウを持った人材の育成が必要となる。

一方、スポーツ領域においては、野球、サッカー、ラグビー等のチーム種目に限らず水泳や陸上競技等の個人種目においてもITの進化によって膨大なデータが得られるようになり、優秀な選手を集めてチームを強化させていくスタイルからデータを有効に利活用した練習や選手の育成、戦術構築、チーム運営を目指すスタイルが増えてきて、データ分析の精度が試合の勝敗に大きく影響することが顕著になってきた。試合の映像を分析し、選手の動きや運動量をデータ化し、更にチームの特徴

(戦略や指導陣の性格等)を反映して自チームの攻め方、守り方等の戦術分析をまとめ、監督やコーチに提案したり個々の選手の強みや弱点を数値化することで効果的なトレーニング方法を選手にフィードバックしたり、勝利するためにはどのようなデータをどのように分析し、活用していくか等を提案できる人材の能力が試合の行方を左右する比重はさらに増すものとみられている。様々なデータを収集し、試合に役立つ形で分析し、チーム内で分析情報を共有できるシステムを作る等チーム強化に繋がる説得力のある提案ができる人材が求められている。この人材はデータサイエンスに係る専門知識や技術に加え、競技の理解や戦術、コーチング、測定機器の利用方法等スポーツ領域に関する幅広い理解が必要となる。

今後、より固有領域に専門特化したデータサイエンス人材の育成が求められてくるなかで、ビッグデータの応用分野として期待されている健康・医療・スポーツ領域において活躍する健康データサイエンス人材養成の必要性は高まるものと思われる。

### ③健康データサイエンスに係る教育・研究拠点としての必要性

データサイエンスはデータに関する総合的な学問分野とされ、数多くの研究分野の集合体であるという側面を持っている。未だ歴史的に新しく又は幅広い領域であり、新たな技術や学術研究の動向、またクラウドコンピューティングやツール等の技術要素についても最新の情報が欠かせない。研究分野の総合力と実際の課題に適用する分析・解析スキルの向上を目指すことが課題といえる。

本学では健康・医療・スポーツ領域に係る教育・研究人材を擁し、豊富かつ多様な臨床データ等の医療情報やスポーツに係るデータを保有しており、医学部、スポーツ健康科学部等との連携を図り、データサイエンスの応用分野として期待されている健康・医療・スポーツ領域を主な活動領域とする人材(健康データサイエンス人材)の養成を目指して健康データサイエンス学部を開設する。学部開設後に大学院開設を視野におく。教育研究機能の整備と研究組織の充実を図り、健康データサイエンス分野に関するデータ分析・解析の最新的手法・応用に係る研究開発を推進して、高度専門職業人や教育者・研究者の育成に取り組み、新たな知見を社会に還元し、健康データサイエンス分野の発展と人々の健康の向上に貢献することを目指す。

本学では、「数理・データ科学教育研究センター」を設置し、全学学生に数理・データサイエンスの素養を身につけさせることを計画している。2022年4月からトライアル授業をスタートし、2023年4月から本格展開を行う。本学部は数理・データサイエンスの基礎から応用までを一貫して教育を行うとともに、全学教育に当たっての教材の開発やデータサイエンス教育に関する他学部教員向けのFDプログラム

の企画等、全学的なデータサイエンス基礎教育の支援的役割を担う。

### 3) 入学定員の設定

本学部は健康データサイエンス学科を配置し、入学定員を100名とする。本学既設の7学部の入学定員は、医学部136名、スポーツ健康科学部600名、医療看護学部220名、保健看護学部130名、国際教養学部240名、保健医療学部240名（理学療法学科120名、診療放射線学科120名）、医療科学部（臨床検査学科110名、臨床工学科70名（令和4年4月開設））である。医学医療系の学部として医学部136名は全国国公立大学医学部のなかで入学定員が最大クラスであり、医療看護学部220名は最大規模の入学定員数である。各学部ともにそれぞれ適切に運営され、入学定員を大幅に上回る志願者を集めている。認可申請書類『学生確保の見通し等を記載した書類』において説明する通り、高校2年生を対象とする本学部への入学意向調査では、1,650名が受験したいかつ入学をしたいと回答を受けた。また企業・団体から本学部卒業生の採用見込みとした採用意向調査では、回答を得た169の企業・団体から174名の採用を見込んでいるという回答を受けた。従って本学の他学部の入学者確保の実績と入学者及び卒業生採用の意向調査の結果を踏まえ、入学定員（100名）の学生を確保することができると思込まれる。

### 4) 教育研究上の目的と研究対象とする学問分野

#### (1) 教育研究上の目的

本学部では、本学の学是である「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、国際性を育み、数理統計、コンピュータサイエンスの基礎の上にデータの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得するとともに、健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識を学修し、健康・医療・スポーツ領域に係るデータを基にデータサイエンスを応用して課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことのできる実践能力を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続できる人材を養成することを教育研究上の目的とする。

また、健康データサイエンス分野に関する学術研究の発展に資するために、学部開設後に大学院開設を視野におく。教育研究機能の整備と研究組織の充実を図り、健康データサイエンス分野に関するデータの分析・解析の最新手法・応用に係る研究開発を推進して、高度専門職業人や教育者・研究者の育成に取り組み、新たな知見を社会に還元し、健康データサイエンス分野の発展と人々の健康の向上に貢献することを目指す。

## (2) 研究対象とする学問分野

データサイエンスはデータに関する総合的な学問分野で広範な領域や分野の集合体という側面を有している。本学部が研究対象とする中心的な学問分野は、統計学、情報学、コンピュータ科学、保健衛生学、体育学とその応用を行う分野である。健康・医療・スポーツ領域でのデータを用いた実践的な応用を探索する研究を推進する。

## 5) 養成する人材と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

### (1) どのような人材を養成するのか

本学の学是である「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、国際性を育み、数理統計、コンピュータサイエンスの基礎の上にデータの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得するとともに、健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識を学修し、健康・医療・スポーツ領域に係るデータを基にデータサイエンスを応用して課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことのできる実践能力を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続できる人材を育成する。

### (2) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学部では、以下の能力を身につけた者に学士（健康データサイエンス学）の学位を授与する。

- ④学是「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、グローバル社会におけるコミュニケーション能力や国際的視野という国際性を身につけていること
- ⑤データサイエンスの基礎となる数理統計、コンピュータサイエンス等の理論と実践を学修し、データの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得していること
- ⑥データサイエンスの専門知識と技術を応用して健康・医療・スポーツ領域において新たな価値を生み出すために必要となる健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識を身につけていること
- ⑦データサイエンスの専門知識と技術を応用して健康・医療・スポーツ領域における課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことができる実践能力を有していること
- ⑧健康・医療・スポーツ領域の専門性を有する人達と円滑なコミュニケーションを図り、協同して現場での課題に対応することができるプレゼンテーション能力を修得していること
- ⑨健康・医療・スポーツ領域におけるデータサイエンスに興味や関心を持ち続け、

自律的な学修を継続して自己成長する態度を身につけていること

(3) 想定される卒業後の進路

卒業後の進路は次のように想定している。

- ①医療機関、製薬企業、医療機器メーカー、健康食品メーカー、ヘルスケア企業、保険会社、スポーツ運営団体、スポーツ用品企業等の健康・医療・スポーツに関連する企業・団体及び官公庁におけるデータ管理・分析者、データ活用・企画立案者
- ②IT・情報通信企業やシンクタンクにおける健康・医療・スポーツ関連部署でのデータ管理・分析者、データ活用・企画立案者
- ③大学院への進学

## 2. 学部・学科等の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（2005年1月28日）の中で提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」では大学の機能分化として以下の7つの類型を提示している。

①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

上記7つの類型のうち、どれか1つに特化した大学は考え難く、全てを満たす大学も考え難い。本学部では、「③幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うとともに、「⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究」及び「⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」を果たすべく、以下の特色をもった学部を設置する。

①学是「仁」の精神に基づき本学が今日まで培ってきた教育実績を基盤として、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、国際性を備えた人材を養成する。

一般教養科目のうち「人間と社会の理解」については1年次から4年次にかけて履修できる。専門科目を学ぶ過程において一般教養科目を学ぶことにより、人間の理解や社会の仕組みについてより深い理解を得ることができる。

②実践的なカリキュラム体制

データサイエンスに関する専門知識及び技術を基礎力から応用力まで身につけることができるように、『専門基礎科目』から『専門展開科目』『総合研究』につながっていく段階的・体系的なカリキュラム体制を編成する。

③授業は講義・演習を組み合わせるよう学修できるように授業科目を編成している。

「講義（理論）－演習（実践）－総合」のプロセスを経ることにより、講義科目により理論・知識を理解し、演習科目を通して実践能力の修得を図り、『総合研究』の「総合演習」「卒業研究」を通して卒業論文をまとめる。

④健康医療データサイエンスとスポーツデータサイエンスを選択できる主科目、副科目制の設定

健康医療データサイエンスを学修する科目とスポーツデータサイエンスを学修する科目を配置し、学生は進路や希望に応じていずれかの科目を主科目として選択して学修する。副科目の科目についても選択科目として学修し、俯瞰的な視野を身につける。

⑤グループワークを取り入れた授業

講義形式による授業に加えて講義により修得した知識を応用し展開するため演習形式の授業を配置している。演習授業では、学内の ICT 環境及び学生が持参するノートパソコンを利用してグループワークを取り入れ、グループの討議により新たな発想に気づき、理解を深め応用力の向上を図る。

⑥学部開設後に大学院開設を視野におき、卒業後あるいは社会経験を経て大学院に進学し、より高度な専門知識及び技術の修得を目指す構想を推進する。

### 3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

データサイエンスの応用分野を教育研究の領域とする学部名称は、先行例として滋賀大学、横浜市立大学、武蔵野大学及び立正大学が学部名をデータサイエンス学部とし、数理や統計の基礎力を身につけ、ビジネス分野のデータ解析結果を踏まえて新たな社会的価値を創造できる人材育成を目指している。鈴鹿医療科学大学では医療健康分野で活躍するデータサイエンス人材の養成を目指して医用工学部医療健康データサイエンス学科を開設している。

本学部は、データサイエンスに求められる数理統計、コンピュータサイエンスの基礎の上にデータの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得するとともに、健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識を学修し、健康・医療・スポーツ領域に係るデータを基にデータサイエンスを応用して課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことのできる実践能力を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続できる人材を養成する。医療・スポーツ領域におけるテーマは「健康」という共通概念に括れることから、学部名称を「健康データサイエンス学部」とし、英文名称を国際的な通用性に留意して「Faculty of Health Data Science」、学科名称を「健康データサイエンス学科」とし、同様に英文名称を「Department of Health Data Science」とする。

学部、学科及び学位の英文名は以下の通りとする。

	和文名	英文名
学部の名称	健康データサイエンス学部	Faculty of Health Data Science
学科の名称	健康データサイエンス学科	Department of Health Data Science
学位の名称	学士（健康データサイエンス学）	Bachelor of Science in Health Data Science

#### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

##### 1) 本学部の教育目的と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学部では、本学の学是である「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、国際性を育み、数理統計、コンピュータサイエンスの基礎の上にデータの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得するとともに、健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識を学修し、健康・医療・スポーツ領域に係るデータを基にデータサイエンスを応用して課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことのできる実践能力を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続できる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

教育目的を達成するための本学部カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）は次に示す通りである。

- ①『一般教養科目』の科目を学修して、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、グローバル社会におけるコミュニケーション能力や国際的視野という国際性を身につける（本学部ディプロマ・ポリシー①に対応する）
- ②『専門基礎科目』に配置される『コンピュータ基礎科目』『数理統計データサイエンス基礎科目』及び『専門展開科目』に配置される『コンピュータ科目』『数理統計データサイエンス科目』の科目を学修して、コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、プログラミング及び情報セキュリティや数理統計に関する基礎から応用に至る知識と技術を身につけ、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得する（本学部ディプロマ・ポリシー②に対応する）
- ③『専門基礎科目』『健康医療スポーツ科目』の科目を学修して、健康・医療・スポーツ領域に関する基本的知識を身につけ、健康・医療・スポーツ領域におけるデータサイエンスの必要性や発展について理解する（本学部ディプロマ・ポリシー③に対応する）
- ④『専門展開科目』『健康医療データサイエンス科目』『スポーツデータサイエンス科目』の科目を学修して、健康・医療・スポーツ領域における多様なデータを

収集・加工・分析・解析する専門知識と技術を修得し、課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことができる実践能力を養成する（本学部ディプロマ・ポリシー④に対応する）

⑤『総合研究』の科目を学修して、実務家による講義や実社会での体験を通して各自の研究分野に対するモチベーションを高め、総合演習を経て卒業研究に取り組むことにより、個々の研究課題を設定し必要な状況を論理的に分析・解析し、解決策を提示する能力を修得する（本学部ディプロマ・ポリシー④に対応する）

⑥『専門科目』におけるグループワークを通して、課題解決に向けての論理的な思考やプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養成する（本学部ディプロマ・ポリシー④、⑤に対応する）

⑦『専門科目』の科目を学修して、自律的な学修を継続して自己研鑽を続け、自己成長する態度を身につける（本学部ディプロマ・ポリシー⑥に対応する）

学修成果は、授業科目ごとのシラバスに明示された評価方法（課題レポート、定期試験等）と評価基準に基づき、到達目標の修得状況にて評価し、加えて学生自らの授業への取り組みの主観的評価を学生による授業評価によって包括的に評価し、その評価結果の活用を通じて教育課程及び教育方法の改善につなげていく。

## 2) 教育課程の編成の考え方と教育課程の編成

### (1) 教育課程の編成の考え方

本学部では、既設学部学科と同様に教育課程の編成は学則で定める。

学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。また学年を分けて2学期とする。前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。

本学部の教育課程においてデータサイエンスの専門知識と技術の修得を図るに当たり、データサイエンスを学ぶ上で必要な基本となる数学及び統計学の基礎は必修科目として1年前期に履修する。数理的習熟度については個人差が大きいことが想定されるので、授業外において教員による補習授業を行い、本学部の講義に対応できる学力を確保する。

1年前期から『専門基礎科目 コンピュータ基礎科目』においてコンピュータ操作技術、プログラミング、ネットワーク、情報セキュリティ等コンピュータの知識やコンピュータによる情報処理能力の修得を図る。特にプログラミングについては、重点を置いて教授し、演習形式による必修3科目を配置する。『数理統計データサイエンス基礎科目』において数理統計の理論と知識を修得するために、1年前期から2年前期に微積分学、線形代数学、確率と統計、情報倫理を必修科目として学修する。データサイエンスの概論や基礎演習の科目においてデータサイエンス全般を理解するとと

もに、基本的なデータ分析・解析手法を修得する必修科目を配置し、専門的なデータサイエンスの導入科目とする。健康・医療・スポーツ領域においてデータサイエンスを応用して有効な課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すためには、コンピュータ科学や統計学の基礎的知識・技術を身につけるだけではなく、健康・医療・スポーツ領域について領域固有の知識を理解していかなければならない。『健康医療スポーツ科目』において健康・医療・スポーツ領域について幅広く基本的知識について理解を図る。

2年後期から『専門展開科目』を履修する。コンピュータ科学の応用領域として、データ構造とアルゴリズム、データベースの管理、プログラミングの演習、情報セキュリティを講義と演習を組み合わせで学修し、数理統計データサイエンスの応用領域として多変量データ解析、グラフ理論と最適化、機械学習、人工知能について主に演習形式により様々な各種統計手法の修得を図る。

健康医療データサイエンスとスポーツデータサイエンスの領域別データサイエンス科目はいずれかを学生が自分の関心に基づいて選択し、主科目とする。副科目についても科目を選択し、俯瞰的な視野を身につける。

『専門展開科目 健康医療データサイエンス科目』、『専門展開科目 スポーツデータサイエンス科目』では、健康・医療やスポーツの領域で扱われる多様なデータの特徴や分析手法を学修し、実際のデータを使った演習を行い、データ分析・解析力を身につけ、問題解決能力を磨き、応用力を養成する。

3年後期からゼミ・研究室に配属し、『総合研究』「総合演習」を通して見出した個々の研究課題に基づいてこれまでに学修した知識・技術を基に「卒業研究」を履修し、卒業論文としてまとめる。

## (2) 教育課程の編成

本学部の教育課程は、次の2つの科目群により構成する。

1. 一般教養科目
2. 専門科目

専門科目は、さらに次の3つの科目群により構成する。

- ①専門基礎科目
- ②専門展開科目
- ③総合研究

それぞれの授業が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるように講義・演習を適切に組み合わせで編成しており、これらの科目群を履修することによりディプロマ・ポリシーに掲げた専門知識と高い技術を有し、将来健康・医療・スポーツ領域で活躍できる健康データサ

イェンス人材の育成を目指す。専門科目における主要授業科目の位置づけ及びどの授業科目が健康・医療・スポーツ領域に対応しているかについては、専門科目における主要授業科目及び各領域対応表（資料7）で示し、授業科目構成の体系的な関係性をカリキュラム・ツリー（資料8）で示す。

### (3) 『一般教養科目』の教育課程

『一般教養科目』は、次の5つの科目区分によって構成する。

- ①人間と社会の理解
- ②自然科学の理解
- ③外国語の理解
- ④スポーツと健康
- ⑤キャリア支援

健康・医療・スポーツ領域に係るデータサイエンス人材として備えておくべき知識や考え方、人間としての在り方や生き方、経済社会の理解、自然科学に関する基本的な知識の修得、外国語によるコミュニケーション能力及びスポーツによる健康と体力作り等、幅広い教養と汎用的な知識や技術を身につけるための科目より構成する。『人間と社会の理解』『自然科学の理解』『外国語の理解』『スポーツと健康』及び『キャリア支援』の5つの科目区分で構成し、主に1～2年次に配置するが『人間と社会の理解』の科目は1年次～4年次開講とする。

#### ①『人間と社会の理解』

人間や経済社会に対する知識を学修し、将来の職種や社会状況の変化にも対応できる教養を身につけるため、人文科学と社会科学に関する多様な科目を配置する。ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに掲げた高い倫理観を身につけることは、データを取扱う者には重要な要素である。倫理観を身につけるために『人間と社会の理解』に「現代社会と倫理」「科学と哲学」「心理と行動」を配置するとともに、専門基礎科目に「情報倫理」と医療倫理を理解する内容を含む「医療概論」を必修科目として配置する。ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに掲げた国際性を身につけるために外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るとともに、『人間と社会の理解』の科目に「英語圏文化と文学」「国際コミュニケーション論」「グローバル人材論」「世界の人権問題」「国際経済論」を配置し、国際的な視野の修得を目指す。全ての科目を1年次から4年次開講科目とし、自身の履修計画に合わせ専門科目と関連づけ履修できるように配置する。

#### ②『自然科学の理解』

自然科学に関する基本的な知識の修得と科学的な見方や考え方を身につけること

を目的に、全科目を1年次前期に配置する。「生物学（基礎）」「物理学（基礎）」「数学（基礎）」「微分と積分（基礎）」「数理・情報リテラシー」を選択科目として配置するとともに、データサイエンスを学ぶ上で必要な基本となる数学及び統計学については「線形代数学（基礎）」と「統計学（基礎）」を必修科目とする。数学Ⅲ未履修者、入学試験における数学の成績下位者及び数学の学修に不安を感じている者等、数学の能力が十分ではない学生には「数学（基礎）」「微分と積分（基礎）」の履修を勧めるほか、授業外における教員による補習授業を開講し、基礎学修の段階で学生が学修意欲を失うことのないように配慮する。

### ③『外国語の理解』

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに掲げた国際性を身につけるためには、外国語、特に英語によるコミュニケーション能力の修得が必要である。「総合英語Ⅰ」「総合英語Ⅱ」「総合英語Ⅲ」「総合英語Ⅳ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の6科目6単位を1年次必修科目として配置し、英語力を段階的に高めていく。更に英語力の強化を目指す学生に対し「Intensive EnglishⅠ」「Intensive EnglishⅡ」「Intensive EnglishⅢ」「Intensive EnglishⅣ」を選択科目として2年次に配置する。第2外国語の修得のため「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」を2年次選択科目として配置する。本学では英語力向上に力を入れており、1年生入学時と12月頃に2回全員がTOEFL iBT試験を受験する。その中で高得点をあげた学生及び1回目より2回目に得点を伸ばした学生に対してTOEFL High Score 賞及びTOEFL Highly Developed 賞として奨学金を授与する制度を設け、学生の英語力向上のためのモチベーションアップの支援を行っている。

### ④『スポーツと健康』

本学は健康総合大学としてスポーツ教育に力を入れている。学生自ら自立した生活を送るための健康・体力の維持増進等に取り組むとともに、スポーツを通して社会適応能力や良好なコミュニケーション能力が形成されることを目指す。1年次に「スポーツ実技」を必修科目とし、「スポーツ健康運動方法論」を選択科目として配置する。

### ⑤『キャリア支援』

「キャリアデザイン論」を1年次に必修科目として配置する。1年次から自らの職業観、勤労観を育み、自立した個人として行動するための基礎的な考え方を理解する。「文章表現法／論文・レポートの書き方」「ディベート」では、レポートやゼミナールでの論文作成のために文章の表現力やプレゼンテーション能力の向上を図り学修の基礎的スキルを修得する。

#### (4) 『専門科目』の教育課程

専門科目は『専門基礎科目』『専門展開科目』『総合研究』によって構成する。健康データサイエンスの基礎知識を応用分野に展開するため、段階的に専門知識及び技術の修得を目指す。

#### (5) 『専門基礎科目』の教育課程

専門基礎科目は次の3つの科目区分により構成する。

- ①『コンピュータ基礎科目』
- ②『数理統計データサイエンス基礎科目』
- ③『健康医療スポーツ科目』

『コンピュータ基礎科目』『数理統計データサイエンス基礎科目』においてデータサイエンスを学修するための専門的基礎力を身につけるために、コンピュータ科学、プログラミング、数学、統計学、情報セキュリティ、データサイエンス、情報倫理に関する基礎的科目や概論的な科目を配置し、必修科目を主体として配置する。入学後の早い段階から学修意欲を高め、自主的な学修態度を促すように、科目を1・2年次に配置する。

- ①『コンピュータ基礎科目』には、必修7科目（9単位）と選択4科目（8単位）を配置する。
  - a) データ処理やデータ解析にはコンピュータの利活用が必須であることから、「コンピュータ概論」（必修）、「コンピュータ基礎演習」（必修）、「コンピュータアーキテクチャ」（選択）を配置し、コンピュータ及びコンピュータ関連領域の基本知識や技術を講義と演習により修得するとともに、コンピュータの先進的な活用を学修する。
  - b) 数理技術を利用してデータサイエンスを実践するためプログラミング技術の修得が求められることから、プログラミングについては重点的に教授する。「プログラミング演習Ⅰ」「プログラミング演習Ⅱ」「プログラミング演習Ⅲ」を必修科目として配置する。プログラミングの基本的な概念を理解し、プログラミング環境の設定や利用方法を学び、プログラミング言語の基本制御構造や構文を理解し、効率的なプログラムが作成できるように演習形式で学修する。プログラミング教育は『専門展開科目』において、さらにプログラミングスキルを高めようとする学生は「プログラミング演習Ⅳ」「プログラミング言語論」を選択科目として学修することができる。
  - c) 「オペレーティングシステム」（必修）を配置し、近代的なコンピュータの基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムの構造及びプログラミングが

どのように実行されるかを演習形式により理解する。

- d) 情報ネットワークにおける概念や要素技術を学び、インターネットの仕組みを理解するため「情報通信の仕組み」「コンピュータネットワーク」を選択科目として配置する。データサイエンスでは個人情報や個人の様々な通信履歴等が情報として利用され、個人のプライバシーが侵害される危険性が高くなっている。
  - e) 多様なデータを可視化するのに必要な基礎理論と主要な可視化表現の方法を学修する「情報可視化概論」（選択）を配置する。
  - f) 情報システムを設計・構築・運用する上で欠くことのできない情報セキュリティの基本を学修するため「情報セキュリティⅠ」（必修）を配置する。
- ②『数理統計データサイエンス基礎科目』には、全科目必修9科目（17単位）を配置する。統計学やデータ解析等を学ぶ上での有用な理論となる微積分学、線形代数学、確率と統計に関する授業科目は、年次を跨ぐことなく年次の前期・後期に連続して必修科目として配置し、学修効果を高める。データサイエンスは何なのか、その役割と社会に与える影響やデータの取得・管理やデータサイエンスの各種手法と応用事例を学修し、データサイエンスを概観する「データサイエンス概論」（必修）とデータサイエンスで用いる基本的なデータ分析・解析手法を演習形式で学修する「データサイエンス基礎演習」（必修）を配置し、データサイエンスの基本的知識・手法を学修する。個人のプライバシーの保護やデータサイエンスを巡る倫理問題について教授するため「情報倫理」（必修）を配置する。
- ③『健康医療スポーツ科目』には、必修科目として健康医療領域5科目（8単位）、スポーツ領域2科目（4単位）及び選択科目として11科目（22単位）を配置する。当該科目では、データサイエンスを健康・医療・スポーツ領域で応用し、問題解決の方策を考案・提言したり、新たな価値やサービスを生み出すことのできる実践能力を身につけるためには、健康・医療・スポーツ領域に係る基本的知識を理解しておくことが必要である。健康・医療・スポーツ領域に関し、多様な方向から横断的に学修し、領域固有の知識を修得できるように科目配置を行う。医学医療領域においては、データを解析・活用するに当たって必要となる臨床医学の基礎となる基本的知識を学修するとともに、公衆衛生学、医療情報、医療経営、生体情報解析、医療安全管理について学修する。スポーツ領域においては、データサイエンスの手法を応用するに当たっての基礎となるスポーツに係わる基本的な知識や考え方を学修する。

#### (6) 『専門展開科目』の教育課程

『専門展開科目』は『専門基礎科目』で身につけた学力をさらに発展させ、データ

サイエンスの実践能力を身につけるため、次の4つの科目区分により構成する。

- ①『コンピュータ科目』
- ②『数理統計データサイエンス科目』
- ③『健康医療データサイエンス科目』
- ④『スポーツデータサイエンス科目』

『コンピュータ科目』は『専門基礎科目 コンピュータ基礎科目』の同科目の応用として位置づける。『数理統計データサイエンス科目』は必修科目を主体として配置し、各種統計手法を学修するとともに、機械学習、人工知能について講義と演習を組み合わせて理解を深める。『健康医療データサイエンス科目』『スポーツデータサイエンス科目』は主科目選択制とし、『健康医療スポーツ科目』で修得した知識を踏まえ、『コンピュータ基礎科目』『数理統計データサイエンス科目』で修得した領域に関する知識・技術を用いて健康医療領域あるいはスポーツ領域に係るデータをもとにデータの加工・分析・解析を講義と演習を組合せて実践的に学修し、健康医療領域あるいはスポーツ領域におけるデータサイエンスの応用展開を図る科目である。

- ①『コンピュータ科目』には、必修3科目(4単位)と選択7科目(10単位)を配置する。コンピュータの実践的技術を深化させるため、プログラムを作成する上で欠くことのできないデータ構造の理解とデータを処理し、プログラムを効率よく処理するためのアルゴリズムを身につける「データ構造とアルゴリズム」、基本的なデータベース操作を行うための「データベース」を必修科目として、演習形式で手法を修得する。組み込みシステムの仕組みと重要性を学修する「組み込みシステム」を必修科目とし、「計算科学の応用」「プログラミング演習Ⅳ」

「プログラミング言語論」「情報可視化演習」をそれぞれ選択科目として配置する。実際の情報システムを設計・構築・運用する上で欠かすことができない情報セキュリティの重要性やサイバー攻撃の仕組み、安全なシステム構築・運用の考え方、情報セキュリティインシデント対応等、情報システムの安全性に係わる様々な対応技術の修得を図るため、「情報セキュリティⅡ」「情報セキュリティⅢ」「ネットワークセキュリティ」をそれぞれ選択科目として配置する。

- ②『数理統計データサイエンス科目』には、必修7科目(9単位)と選択1科目(2単位)を配置する。複雑な多変量データを扱うための統計的手法を学ぶ「多変量データ解析」、様々な種類のデータに対する統計モデルを学修しデータのなかから特定パターンを見つけ出す「統計モデリング」、多くの専門分野で共通知識として利用される最適化手法の適用を学ぶための「グラフ理論と最適化」を必修の演習科目として配置する。統計方法論の実践の適用法を学修しその背景にある統計理論の正しい知識を修得する「応用統計」、データマイニングの手法や機械学習の基礎理論を学修するため「機械学習」「機械学習演習」及び人工知能技術に

ついて学修する「人工知能」「人工知能演習」を必修科目として配置する。

③『健康医療データサイエンス科目』『スポーツデータサイエンス科目』は学生が自らの進路や関心に応じていずれかの科目を主科目として選択して履修する。副科目の科目についても選択科目として履修し、総合的な視野を身につける。健康医療領域あるいはスポーツ領域においてデータサイエンスがどのように利活用されているかを理解するとともに、健康・医療・スポーツ領域に係るデータの整理・加工・分析・解析する技術を身につけ、健康・医療・スポーツ領域に係る知識を基に健康データサイエンスにおける課題解決に応用する手法を修得する。

④『健康医療データサイエンス科目』には、選択 11 科目（18 単位）を配置する。『健康医療データサイエンス科目』を主科目として履修する場合には、次の 5 科目 7 単位を選択必修として修得する。

- ・臨床研究や疫学研究のデザイン、医療データの扱い方や統計解析の手法を学び、データ分析と分析結果の報告までの流れをグループワークで修得する「健康医療統計学」「健康医療統計学演習」
- ・医療や保健衛生のデータに関する取り扱いの注意点、多種類データの統合、解析手法の選択について学修し、統計ソフトを用いた演習を行い健康医療に係わる実データ解析を通して統計解析手法を修得する「医療データ解析」「保健衛生データ解析」
- ・健康医療分野におけるシミュレーション技法を学修する「保健医療シミュレーション」

その他に選択科目として専門基礎科目で学修した生体情報解析を演習形式で体系的に理解する「生体情報解析演習」、病院内で収集・蓄積されるデータ利活用に関する知識と技術を学修する「医療情報システム論」、医学・医療に係る研究デザインについて学び、多様なデータベースの意思決定に必要な解析手法を事例を通して学修する「臨床研究とデータサイエンス」、医療・健康、医薬品、介護、リハビリテーションにおけるビッグデータ解析に関する方法論等を学修する「医療と健康のデータサイエンス」「医薬品情報とデータサイエンス」「リハビリテーションとデータサイエンス」を配置する。『健康医療データサイエンス科目』を主科目として選択する学生は、選択必修科目から 7 単位を修得し、さらにこれらの選択科目と『スポーツデータサイエンス科目』の中から合わせて 11 単位以上修得する。

⑤『スポーツデータサイエンス科目』には、選択 8 科目（14 単位）を配置する。『スポーツデータサイエンス科目』を主科目として履修する場合には、次の 4 科目 8 単位を修得する。

- ・スポーツ・競技について数理科学の立場からアプローチするための考え方と手

法を学修する「スポーツの数理科学」

- ・競技スポーツ等におけるデータの収集やデータ利用等データの取り扱いを学修する「スポーツデータリテラシー」
- ・スポーツに密接にかかわっているマーケティングの基本から始め、マーケティング課題を解決するための基本的な統計モデルについて学修する「スポーツとマーケティング」
- ・数理科学を応用するための具体的なモデルの作り方や計算方法等について学修する「スポーツとモデリング」

その他に選択科目として様々なスポーツに関するデータを分析する基本的なモデルを学修し、データ分析結果を演習形式でディスカッションし、スポーツデータサイエンスの知識と技術の展開向上を図る「スポーツデータサイエンスⅠ」「スポーツデータサイエンスⅡ」、計測データを使ったデータ同化技術を組み合わせることにより基礎方程式を簡略化して解析する手法やモデル化する方法を学ぶ「スポーツの流体力学」、種々の運動計測の結果から身体寸法と各種の筋肉の大きさ、発生する筋力との関係をデータ分析し、モデルの妥当性を確認する過程を通してデータサイエンスの手法を学ぶ「バイオメカニクスと運動計測」を配置する。『スポーツデータサイエンス科目』を主科目として選択する学生は、選択必修科目から8単位修得し、さらにこれらの選択科目と『健康医療データサイエンス科目』の中から合わせて10単位以上を修得する。

#### (7) 『総合研究』の教育課程

『総合研究』には、必修2科目（6単位）と選択3科目（6単位）を配置する。「健康データサイエンス実践論」「スポーツデータサイエンス実践論」「インターンシップ」では、企業におけるデータ活用の事例を通してデータサイエンスの情勢や課題、今後の方向性を理解するとともに、実社会での就業体験を行う。3年次後期からゼミ・研究室配属を行い、「総合演習」では演習形式を通して今まで修得した知識や技術の整理及び統合を行うとともに、研究に必要な基本的手法を修得し、卒業研究の方向性や研究課題を設定できるようにする。4年次の「卒業研究」では担当教員の指導により「総合演習」までに見出した個々の研究課題に基づいて研究に取り組み、得られた成果や課題解決を卒業論文としてまとめ、研究報告会で発表し、主体性をもって研究を遂行できる基礎的能力を育成する。研究発表を行うことにより自らの意見を他者に理解させるのに必要なプレゼンテーション能力を身につけさせる。

## 5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### 1) 教育方法

### (1) 講義及び演習の一貫性のある教育

基本的な専門講義科目については、1 学年 100 名が 1 クラスで学ぶ。講義で学んだ基礎理論を実践する力をつけるための演習科目については、2～3 クラスに分割して授業を行い、きめ細やかなフォローを行う。パソコンを利用する演習では学生が持参するノートパソコンを利用する。

本学部の授業方法は、理論・知識の理解を目的とする授業は講義形式を中心とし、技術を修得することを目的とする授業は演習形式をとる。理論・知識及び技術を修得し、実践的に活用・応用できるようにするため、講義・演習を関連づけて段階的に学修できるように履修の順序に配慮し、体系的に授業科目を配置している。

### (2) 初年度教育の重視

①入学時にオリエンテーションを実施し、将来の社会人及び職業人としての自覚を養い、学修目的を明確にさせる。『一般教養科目』「キャリアデザイン論」を 1 年次に必修科目として配置し、早期の段階から自らの職業観、勤労観を涵養する。

②1 年次より『一般教養科目』と『専門基礎科目』を楔形に配置し、早期からデータサイエンス人材としての目標・意識・素養を育むように指導する。

### (3) 効果的な教育方法の導入

本学では、授業方法を『passive から active へ』を合言葉としている。教員が知識を伝達する一方通行的な授業ではなく、学生主体・学生参加型の授業方法を重視している。シラバスにおいて予習すべき事項を周知し、学生は予習を行った上で授業に参加し、教員は学生の反応を確認しながら学生から質問を受ける又は逆に学生に質問を行うなど双方向の授業を行い、学生の理解を深める工夫に取り組む。毎回の授業毎又は学期毎に「学生による授業評価アンケート調査」を実施し、その教育評価を教員にフィードバックすることにより、教員が教育方法の向上と授業内容の改善に取り組むように指導する。

### (4) 自ら考え実践できる能力を育成する教育

学生自らが主体的・実践的に学修する演習科目を設置する。演習によるグループワークを通して将来実社会等で遭遇する様々な課題に対応するために必要となる知識・技術を有機的に活用し、的確に判断し、課題解決を実践する能力を育成する。データ分析等の演習課題を実施しても、出てきた結果が必ずしも予測通りになるとは限らないことがある。何故そうなったのか、そうなるまでの過程を様々なデータから掘り下げ、生じた問題の対処や解決法をグループワークを通して検討し、自ら考え実践でき

る能力の育成を図っていく。

## 2) 履修指導方法

### (1) 履修ガイダンスの実施

- ①入学時にオリエンテーションを実施し、大学での学修の意義や目的、学修計画、履修方法、学修方法等、卒業後の進路や目標を見据えて学修を行うよう指導する。併せて個別の履修相談や健康管理、生活指導等の学生生活支援を行う。
- ②各学年の開始に当たり、学年別の履修ガイダンスを開催し、開講科目の説明や履修指導を行い、学生の適性や能力、進路希望に応じて学生の履修科目に関する助言を行う。

### (2) 履修モデルの提示

学生の興味・関心の方向性により健康医療領域、スポーツ領域の進路を希望することを想定し、4年間の履修計画に基づき体系的・主体的に学修を進めることができるように履修モデルを設定し、効率的・効果的学修を指導する。

【資料9】健康データサイエンス学部健康データサイエンス学科履修モデル

### (3) シラバスの作成

全ての授業科目においてシラバスを作成し、各授業科目の概要、ディプロマ・ポリシーとの関連、到達目標、講義内容、授業方法、予習・復習、成績評価の方法と基準、教科書及び参考図書等を記載し、学生に提示する。

### (4) 学修教育システムの導入

学生の学修支援のため全学に順天堂教育支援システム（JUNTENDO PASSPORT（通称「J-PASS」））を導入している。学生はスマートフォンから履修登録、大学からの連絡を通知する掲示板、シラバス・講義資料の受け取り、課題提出、授業評価アンケート、成績確認ができる。休講、緊急時の重要な連絡等が登録された携帯電話やメールアドレス、スマートフォンのアプリに届くように設定が可能で、インターネットに繋がっている環境であれば、自宅や携帯端末からもアクセスすることが可能となっている。これにより学生は教員や大学との間の連絡を密に行うことができる。

### (5) 年次履修上限の設定

学生が教室における授業に加えて、教室外で予習・復習の学修を主体的に行うように指導し、充実した授業展開により学修効果を高めるために1年次当たりの履修単位数の上限を定めた「CAP制」を導入する。1年次当たりの履修単位数の上限は次の通り

とする。1年次及び2年次については『一般教養科目』を中心に『専門基礎科目』の授業科目を配置して早い段階から学生に学修に対する動機付けを図るように上限単位を高め設定している。

1年次	2年次	3年次	4年次
46単位	46単位	40単位	30単位

#### (6) オフィスアワーの設定

学生からの質問や学修・履修相談に応じるために、専任教員が専用の時間帯（オフィスアワー）を設定し、教員と学生とのコミュニケーションの円滑化を図り、きめ細やかな教育指導を行う。

#### (7) 成績評価

シラバスに記載された成績評価基準に基づき厳格な成績評価を行う。各授業科目の成績評価は「S」から「D」までの5段階評価とし、「S」～「C」（再試験により合格した場合は「C」）の成績評価を得た者は合格とし、その授業科目の単位を修得する。「D」は不合格とする。

<GPA (Grade Point Average) 評価>

Grade Point は成績評価に基づき次のように対応する。

指標	合格				再試験合格	不合格
評価	S	A	B	C	C	D
素点	100-90	89-80	79-70	69-60	60	59-0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	1.0	0.0

修得ポイントは〔授業科目単位数×その科目のGrade Point〕とし、GPAは〔修得ポイントの合計÷履修した授業科目の単位数の合計〕で示す（小数点第三位以下切り捨て）。

GPA得点は、試行的に学修指導、履修指導、教育方法の改善に利用する計画である。

### 3) 卒業要件

卒業要件は、大学に4年以上在学し、必修科目及び所定の単位数の選択科目を履修し、127単位以上を修得するものとする。卒業時には「学士（健康データサイエンス学）」の学位が授与される。

具体的な履修方法として、『一般教養科目』は、45科目76単位から必修13単位に加え選択科目から19単位以上修得しなければならない。このうち『人間と社会の理解』から8単位以上、『自然科学の理解』から必修4単位に加え選択科目から4単位

以上、『外国語の理解』から必修6単位に加え選択科目から4単位以上、『スポーツと健康』及び『キャリア支援』から必修3単位に加え選択科目から3単位以上を修得しなければならない。

『専門基礎科目』では、38科目68単位から必修38単位に加え選択必修8単位、選択科目から4単位以上修得しなければならない。『コンピュータ基礎科目』は必修9単位に加え選択科目から4単位以上、『数理統計データサイエンス基礎科目』は必修17単位、『健康医療スポーツ科目』から必修12単位に加え選択必修8単位以上を修得しなければならない。

『専門展開科目』では、37科目57単位から必修13単位を含め37単位以上を修得しなければならない。このうち『コンピュータ科目』は必修4単位、『数理統計データサイエンス科目』は必修9単位に加え、『コンピュータ科目』及び『数理統計データサイエンス科目』の選択科目のうち両区分から6単位以上修得しなければならない。『健康医療データサイエンス科目』を主科目とし選択する場合は選択必修科目から7単位、主科目の中のその他の科目及び副科目から11単位以上合わせて18単位以上を修得しなければならない。『スポーツデータサイエンス科目』を主科目とし選択する場合は選択必修科目から8単位、主科目の中のその他の科目及び副科目から10単位以上合わせて18単位以上を修得しなければならない。

『総合研究』では、5科目12単位から必修6単位に加えて選択科目から2単位以上を修得しなければならない。

## 6. インターンシップ（企業実習）の具体的な計画

### (1) 実習目的・目標

健康・医療・スポーツ分野の企業等に就業体験を実施し、就業体験を通し、実社会で展開される実践的な知識や技術を学び、大学で学んだ専門知識と実際の体験の統合を図ることにより専門知識の学修や研究に対する目的意識を確立する。将来の職業選択など自己のキャリアデザインに活かす機会とするとともに、社会人として必要なマナーやスタンス（姿勢）、責任感を身につけることを目標とする。

### (2) 実習時期

3年次通期（2週間）、原則として夏季休業期間中

### (3) 実習先の確保状況

実習は医療機関や健康関連企業、IT企業、スポーツ関連企業等で実施する。選択科目であることから、受入人数として80名を想定し、実習先を確保している。実習先は本学医学部附属病院、同関連病院、本学との連携協定締結企業、共同研究講座及び

寄付講座設置企業、大学院医学研究科企業連携講座開設企業等、本学と緊密な関係を有している。履修希望者が想定の 80 名を超えても増員には全く問題ない。

#### (4) 実習先との連携体制

実習先との間で実習の内容、受入条件、服務規程、学生の個人情報管理、秘密保持等を定めた覚書（協定書）締結する。インターンシップ責任教員を委員長としてインターンシップ委員会を編成し、実習期間中は実習先指導者との緊密な連携を図る。

#### 【資料 10】インターンシップ実習先一覧

#### (5) ガイダンスの開催

- ①3 年次 4 月にインターンシップに関するガイダンスを開催し、実習受入企業・団体の案内、履修方法等について説明を行う。
- ②履修希望学生の希望先・希望業種等をもとに学内選考を行い、実習先を決定する。なお申込後の途中辞退は原則として認めない。
- ③履修希望学生者数によっては、実習に参加できない場合がある。また学生本人の希望や意向にかかわらず、インターンシップ委員会の判断によって受けられない場合もある。

#### (6) 事前研修

実習の実施に当たって実習参加学生を集め、インターンシップの意義と目標、業界及び実習先の概要、挨拶や言葉遣い、電話応対等のビジネスマナー、職場でのコミュニケーションの取り方、秘密保持義務等について研修を行う。

#### (7) 実習方法

- ①実習先に学生 1～8 名を派遣する。
- ②学生は実習先による実習指導計画書に基づき実習する。
- ③学生は実習先に対し、服務規律の遵守に係わる誓約書を提出する。
- ④学生は実習期間中実習日誌を作成し、実習先指導者に提出する。実習終了後に実習報告書を作成し、実習日誌と合わせて大学に提出する。
- ⑤交通費・食事等は実習先により異なるが原則として自己負担とする。

#### (8) 事後研修

実習後は実習成果報告会を開催し、実習報告やグループワーク等により就業体験で得た成果について共有を図り、実習を通じて得られた経験や問題意識を今後につなげていく。

## (9) 成績評価体制及び単位認定方法

### ①単位数 2単位（選択）

### ②成績評価と単位認定

実習に全日程参加していることを基本条件に、「実習日誌」「実習先指導者報告書」「実習報告書」「実習成果報告会」を総合的に評価してインターンシップ責任教員が成績判定を行い、インターンシップ委員会に報告し、承認を得て単位認定を行う。

- ・実習日誌及び実習先指導者報告書（50%）
- ・実習報告書（25%）
- ・実習成果報告会における発表等の内容（25%）

## (10) インターンシップの保険

インターンシップに参加する学生は、2つの保険に加入する。

- ・『学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）』  
実習に参加中、自分がケガをした場合に、治療に要した入院・通院日数により補償が受けられる保険
- ・『学研災付帯賠償責任保険（略称：「学研賠」）』  
実習の活動中やその活動のための往復途中等に他人にけがをさせたり、他人の財物を壊したときのための保険

## (11) 秘密保持義務の徹底

事前研修において秘密保持義務について徹底することを指導する。実習先で知り得た機密は、実習先の承諾のない限り実習終了後も漏洩してはならないこと、SNS等への投稿をしないこと、メモ用紙やノート、ファイル類について管理に細心の注意を払うこと、電子データについてはファイルに必ずパスワードをかけること、実習終了後には不要な資料は廃棄し、ノートやメモ用紙はシュレッダーにかけることなどについて、十分に理解させ、機会あるごとに繰り返し指導する。

## (12) 事故発生時の対応

- ①実習時間中に事故が発生した場合、実習先指導者に連絡し、指導者の指示で対処し、当日中に大学に連絡を入れるように指導する。また後日、指導者に報告書を提出するように指導する。
- ②通勤途上等、実習時間外に事故が発生した場合、インターンシップ担当教員に連絡を入れ、指示を待つ。インターンシップ担当教員はインターンシップ責任教員

に連絡するとともに、実習先指導者に連絡をするように指導する。

### (13) 実習先への通勤について

- ①実習先への通勤には、原則として公共交通機関を使用する。自家用車、バイクの使用は原則禁止とするが、実習先まで公共交通機関のない場合には、実習先の許可を得た後、大学で許可をする場合がある。
- ②不意の交通機関の乱れに対応するため、時間に十分な余裕をもって出勤することや実習開始前に実際に実習先まで出向き、通勤時の経路や通勤に要する時間を確認しておくように指導する。
- ③遅刻が見込まれる場合は、可及的速やかに実習先指導者にその旨を報告するように指導する。
- ④万が一、交通事故にあった場合は、警察への届け等適切な処理を行い、可及的速やかにインターンシップ担当教員・大学及び実習先指導者に連絡を入れるように指導する。

### (14) その他

新型コロナウイルス感染症をめぐる大学及び実習先企業・団体の状況をふまえ、実習及び実習関連の活動を中止する可能性がある。実習に参加する場合は、自宅を出る前に検温し、平熱より体温が高い場合や倦怠感や息苦しさ、味覚・嗅覚に異常を感じる症状がある場合は、実習に向かわず、インターンシップ担当教員・大学及び実習先指導者に相談し、実習ではマスク着用、手洗い・消毒励行等感染予防を徹底し、実習先の指示に従うように指導する。

## 7. 入学者選抜の概要

本学部のアドミッション・ポリシーは、次の通りである。

### 1) アドミッション・ポリシー

本学部では、本学の学是である「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、国際性を育み、数理統計、コンピュータサイエンスの基礎の上にデータの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得するとともに、健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識を学修し、健康・医療・スポーツ領域に係るデータを基にデータサイエンスを応用して課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことのできる実践能力を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続できる人材を養成する。従って、入学者には以下のような資質及び素養を備えた学生を求める。

- ①「仁」の精神に共感し、豊かな人間性、協調性を備え、多様な人々と連携し、協

働ける人

- ②数理統計、コンピュータ及びそれらを基礎としたデータサイエンスに対し関心を持ち、自ら積極的に学ぶ意欲・態度を有している人
- ③健康・医療・スポーツ領域の発展に広く貢献したいという意欲を持つ人
- ④高等学校等において能動的にバランスよく学修し、入学後の学修に必要な基礎学力を有する人
- ⑤基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人

## 2) 入学者選抜の概要

本学部は、アドミッション・ポリシーに基づき、学是「仁」に共感し、健康データサイエンス人材を志す入学志願者を多様な入学者選抜方法を工夫し、多面的・総合的に評価して入学選抜を行う。

### (1) 入学者選抜の方法

- ①学校推薦型選抜（公募制）
- ②帰国生入試
- ③総合型選抜
- ④一般選抜
- ⑤大学共通テスト利用選抜

#### 【入学試験区分ごとの募集人数】

	入学定員：100人
①学校推薦型選抜（公募制）	23人
②帰国生入試	若干名
③総合型選抜	13人
④一般選抜	56人
⑤大学共通テスト利用選抜	8人

### (2) 学校推薦型選抜（公募制）

出身高等学校長の推薦書、調査書、大学入学希望理由書及び活動報告書の書類審査に加え、小論文試験と面接試験を実施する。

- ①実施時期－11月中旬
- ②募集人員－23人
- ③出願基準－
  - a. 入学予定前年度3月31日までの卒業見込者（現役のみ出願可）
  - b. 高等学校（中等教育学校）の最終学年第1学期又は前期までの学修成績の状況（評定平均値）が3.5以上であり、数学と理科の評定平均値がいずれも3.8以

上であること

④選考方法－ a. 書類審査

出身高等学校の学校長による推薦書、調査書、大学入学希望理由書（入学後の学修目標・計画を含む）及び活動報告書

b. 小論文試験（数学に関する基礎学力試験を含む）

c. 面接試験

(3) 帰国生入試

外国からの帰国生徒を対象として、外国における教育事情の違い等に鑑み、大学入学希望理由書及び活動報告書による書類審査に加え、小論文試験、面接試験、語学資格・語学検定試験の成績を適切に組み合わせて実施する。

①実施時期－11月中旬

②募集人員－若干名

③出願基準－

a. 外国の高等学校に最終学年を含め2年以上継続して在籍し卒業した者。または、入学予定前年度3月31日までの卒業見込者

b. 外国の中学・高等学校で継続して2年以上教育を受け、入学予定前年度3月31日までに日本の高等学校の卒業見込者で、卒業時点で帰国後原則として2年内の者

c. 文部科学大臣が、高等学校の課程と同等の課程またはそれに相当する課程を有すると認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

d. 国際バカロレア資格取得者など本学が適当と認めた者

e. a及びdは成績証明書を提出すること。b及びcは調査書を提出すること

④選考方法－ a. 書類審査

調査書又は成績証明書、大学入学希望理由書（入学後の学修目標・計画を含む）及び活動報告書

b. 小論文試験（数学に関する基礎学力試験を含む）

c. 面接試験

d. 語学資格・語学検定試験の成績

(4) 総合型選抜

調査書、大学入学希望理由書及び活動報告書による書類審査に加え、小論文試験と面接試験を実施する。

①実施時期－12月中旬

②募集人員－13人

③出願基準－

a. 入学予定前年度3月31日までに卒業及び卒業見込みの者

b. 高等学校（中等教育学校）の最終学年第1学期又は前期までの学修成績の状況（評定平均値）が3.5以上であり、数学と理科の評定平均値がいずれも3.8以上であること

④選考方法－ a. 書類審査

調査書、大学入学希望理由書（入学後の学修目標・計画を含む）及び活動報告書

b. 小論文試験（数学に関する基礎学力試験を含む）

c. 面接試験

(5) 一般選抜

本学部が定める教科・科目の個別学力試験を実施する。調査書及び大学入学希望理由書により多面的・総合的に評価する。

①実施時期－第1回：2月上旬 第2回：2月上旬～中旬

②募集人員－第1回：40人 第2回：16人

③出願基準－入学予定前年度3月31日までに卒業及び卒業見込みの者

④選考方法－個別学力試験及び調査書・大学入学希望理由書（入学後の学修目標・計画を含む）

個別学力試験	①英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰ） ②数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B ③国語、物理、化学、生物から1科目選択
--------	-----------------------------------------------------------------------------

(6) 大学共通テスト利用選抜

本学部が定める教科・科目の大学入学共通テスト試験成績を利用するとともに、調査書及び大学入学希望理由書により多面的・総合的に評価する。

①実施時期－2月中旬

②募集人員－8人

③出願基準－入学予定前年度3月31日までに卒業及び卒業見込みの者で大学入学共通テスト試験の定められた科目を受験している者

④選考方法－大学入学共通テスト試験成績及び調査書・大学入学希望理由書（入学後の学修目標・計画を含む）

大学入学共通テスト 試験成績	①英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰ） ②数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B ③国語、物理、化学、生物から1科目選択
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------

本学部のアドミッション・ポリシーで定める各項がそれぞれの入学者選抜の方法において、どのように対応しているか、対応関係については資料11に示す通りである。

【資料11】選抜区分ごとのアドミッション・ポリシーとの対応関係表

### 3) 選抜体制

#### (1) 入学者選抜に係る組織

本学部の入学試験に関する方針及び選考方法等に関する審議は、本学部教員で構成する入試委員会において行う。

入試委員会は、学部長を委員長とし、教授職及び准教授職の中から学部長が指名する教員をもって構成し、入学条件の設定、入試問題の選定、入学試験の実施及び入学者選考等を行う。開設年度入学試験については、設置認可後に速やかに入試委員会を設置し、学部長予定者を中心に、既設学部にて在籍し本学部への異動予定教授及び開設年度就任予定教員のうちから教授職及び准教授職の教員を中心に行う。

#### (2) 入学試験の実施と入学者の決定

入学試験の実施は、入試委員会が行う。

入試実務については、浦安・日の出キャンパス事務室が学部長の指示を受けて担当する。入学試験の成績判定は、入試委員会にて選考し、教授会の議を経て学長が決定する。開設年度については入試委員会にて選考し、その結果を学長に報告し、学長が決定する。

## 8. 教員組織の編制の考え方及び特色

本学の教員採用・承認は「順天堂大学教員選考基準」に基づき、人格、学歴・職歴及び学術上・教育上の業績等を考慮して行われている。特に本学は医師、看護師、理学療法士、診療放射線技師等の医療職者の養成を行っていることから、教育経験・教育研究業績に加えて、実務経験が豊富な人材を積極的に採用している。

本学部は人材養成の目的に沿った教育課程を実現するために、教育上主要と認められる授業科目に専任教員を配置しており、その専任教員の配置に当たっては、それぞれの領域における教育研究業績、実務経験等と担当授業科目との適合性を十分考慮している。専任教員は一般教養科目を担当する教員を除き、博士の学位を有す

る者を選考した。専任教員数は大学設置基準上の教員数を超える配置となっている。

なお、本学教員の定年は65歳である。学部開設予定の2023年4月1日時点において定年年齢を超える教員及び完成年度迄に定年を迎える教員については、本学「特任教員に関する規程」に基づき雇用を継続することとする。

【資料12】 順天堂大学教員選考基準

【資料13】 学校法人順天堂就業規則（抄）及び順天堂大学特任教員に関する規程

本学部の教員数は、大学設置基準で定める基準教員数14名に対し、完成年度を迎える時点で教授8名、准教授5名、講師1名、助教4名の18名の教員組織となる。このうち新規採用者が15名、内部異動者が3名である。すべての教員が授業科目に関連する分野において十分な研究業績を有し、一般教養科目を担当する教員と専門科目を担当する准教授1名が修士であることを除きその他の教員は全て博士の学位を保有している。3つのポリシーに基づき、質の高い教育課程を実現できるよう、高度な専門知識及び技術を有する教員をその専門分野によってバランスよく配置している。

本学部の主要な授業科目でありデータサイエンス教育の要となるコンピュータ、数理統計データサイエンスの科目は専任の教員及び専任の教員と兼任教員の組み合わせで担当し、健康医療系・スポーツ系データサイエンスの授業科目についても専任の教員及び本学他学部兼任教員を中心に担当する。その他本学の医学部及びスポーツ健康学部をはじめ他学部の専任教員を兼任教員として配置し、幅広い専門性のある教員組織を編成している（資料7）。

[専任教員の配置]

教 授	准教授	講 師	助 教	合計
8名	5名	1名	4名	18名

[専任教員の分野別職位構成]

		教 授	准教授	講 師	助 教	合計
一般教養科目		2名 (1名)				2名 (1名)
専 門 科 目	コンピュータ系	4名 (2名)	1名	1名 (1名)	3名 (2名)	9名 (5名)
	数理統計データサイ エンス系	2名 (1名)	4名 (3名)		1名 (1名)	7名 (5名)

	健康医療データサイエンス系	2名 (1名)	2名 (2名)	1名 (1名)		5名 (4名)
	スポーツデータサイエンス系	2名 (1名)	1名 (1名)		1名 (1名)	4名 (3名)
	医学系				1名	1名

( ) は他の系の授業科目も担当する教員数

『専門基礎科目』及び『専門展開科目』に配置する演習科目の教育研究指導体制について教員配置数、1クラス当たりの学生数及び授業補助者数 (Teaching Assistant : TA) は次の通りとする。

①『専門基礎科目 コンピュータ基礎科目』『専門基礎科目 数理統計データサイエンス基礎科目』

- ・教員担当：2～3クラスに編成し、専任教員と1科目は専任教員・兼任教員が担当する。

	教員配置数	1クラス当たりの学生数	1クラスに配置する教員数
必修演習科目	教員2名の場合	50名	教員1名+TA 3名
	教員3名の場合	33～34名	教員1名+TA 2名

②『専門展開科目 コンピュータ科目』

- ・教員担当：必修演習科目は2クラスに編成し、専任教員・兼任教員が担当する。

選択演習科目はオムニバス方式として1クラス編成で専任教員2名が各授業回を1名で担当する。

	教員配置数	1クラス当たりの学生数	1クラスに配置する教員数
必修演習科目	教員2名の場合	50名	教員1名+TA 3名
選択演習科目	教員2名がオムニバス方式で担当	35名前後と想定 (※)	教員1名+TA 2名

(※) 履修登録者が35名前後を超える場合、2クラスに編成し、教員1名が2クラスを担当する (1クラス当たり学生数は18～25名を想定)。1クラス当たりTA 1名を配置する。

③『専門展開科目 数理統計データサイエンス科目』

- ・教員担当：2～3クラスに編成し、専任教員と1科目は専任教員・兼任教員が担当する。

	教員配置数	1クラス当たりの学生数	1クラスに配置する教員数
必修演習科目	教員2名の場合	50名	教員1名+TA 3名
	教員3名の場合	33～34名	教員1名+TA 2名

④『専門展開科目 健康医療データサイエンス科目』

- ・教員担当：2クラスに編成し、専任教員と1科目は専任教員・兼任教員が担当する。

	教員配置数	1クラス当たりの学生数	1クラスに配置する教員数
選択演習科目	教員2名の場合	35名前後と想定	教員1名+TA2名

⑤『専門展開科目 スポーツデータサイエンス科目』

- ・教員担当：1クラス編成とし、専任教員を配置する。オムニバス方式の選択演習科目は1クラス編成で専任教員2名が各授業回を1名で担当する。

	教員配置数	1クラス当たりの学生数	1クラスに配置する教員数
選択演習科目	教員1名の場合	35名前後と想定 (※)	教員1名+TA2名

(※) 履修登録者が35名前後を超える場合、2クラスに編成し、教員1名が2クラスを担当する(1クラス当たり学生数は18~25名を想定)。1クラス当たりTA1名を配置する。

授業補助者( Teaching Assistant : TA ) は、本学大学院医学研究科( 修士課程 ) データサイエンスコース修了者及び本学大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程又は後期課程修了者の中から選任する。

教員の年齢構成は、完成年度において60歳代以上7名、50歳代4名、40歳代4名、30歳代3名となっている。教授は本学及び他大学や研究機関等で教育研究・実務経験の豊富な人材を配置したことから60歳代が多く、1名70歳代の教員がおり、年齢がやや高くなっているが、心身ともに健康であり教育及び研究に対する情熱を持ったスタッフを揃えており、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障はない。准教授については40~60歳代を中心として他大学での実務経験が豊富な教員を配置している。助教は博士の学位を有する30歳代を中心に若手教員を配置している。

[専任教員の職位別年齢構成]

※年齢は完成年度ベース

	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~65歳	66歳以上	合計
教授			2名	1名	5名	8名
准教授		2名	2名	1名		5名
講師		1名				1名
助教	3名	1名				4名
合計	3名	4名	4名	2名	5名	18名

就任時に定年年齢（65歳）を超える教員及び完成年度迄に定年を迎える教員については、完成年度末を以って退職の予定である。主として教授職にある教員である。後任の教員については、年齢構成や専門領域の職位構成のバランスを配慮しつつ、学年進行に応じて教育研究上の優れた実績を重ねた准教授の教授昇任や学内外から教育研究業績の豊かな教員及び次世代を担う50歳以下の若手教員の採用を計画的に実施し、教育研究の質が維持・向上でき、活性化が図れるように進める。

## 9. 施設、設備等の整備計画

### 1) 校地、運動場の整備計画

本学部を設置する浦安・日の出キャンパス（以下「本キャンパス」という。）は、千葉県浦安市に立地し、JR京葉線新浦安駅より徒歩25分、バスで約5～10分である。本キャンパスの両側に別ルートของバス停があり、利便性は高い。本キャンパスは、平成27年4月に千葉県から取得し、総面積39,500㎡のほぼ正方形の躯体である。本キャンパス周辺は、既に戸建住宅、中高層マンション、小学校等が建てられ、周辺の道路は車道と歩道が区分されている等、計画的に整備され、緑地が多く静かで教育・研究にふさわしい環境である。本キャンパスに既設の1号館校舎に加えて新たに2号館校舎を整備する（2023年9月竣工予定）。本学部は1号館校舎と2号館校舎の講義室、演習室等を利用して授業を行う。校舎の他に体育館（延床面積3,817㎡、バスケットボール2面、バレーボール2面、バドミントン6面を兼ねる）を設置している。体育館にはトレーニングルーム、ランニングコース等を併設する。運動場として、グラウンド（フットサルコート2面）、テニスコート（3面）、合計5,659㎡を設置している。これらの運動施設は、教育課程におけるスポーツ授業だけでなく、学生のクラブ・サークル活動等に利用可能である。

学生がくつろげるスペースとして1号館校舎内に食堂、各階にラウンジ（学生控室）を配置している他、2号館校舎内にプレゼンテーションホール、各階にラウンジ、ラーニングコモンズを整備する。中庭や外構周辺に休憩ベンチを整備し、学生が憩い談笑できる環境を確保している。外構や校庭に多種多様な樹木を配置し、四季折々に咲く花等を植栽し、緑溢れるキャンパスである。

### 2) 校舎等施設の整備計画

#### (1) 校舎の整備

既設の1号館校舎には、医療科学部専用の実習室及び準備室の他に、本学部と共用する講義室、演習室、ゼミナール室、語学室、マルチメディア教室、事務室、図書室を

配置している。2号館には本学部専用の講義室、演習室、ゼミナール室、PC演習室、学生ゼミ・研究室、教員研究室を配置する他、共用施設として学術メディアセンターラーニングcommonsを配置する。教室については授業科目の配置状況や授業形態、履修者数等を考慮の上、必要な数及び規模の教室を配置しており授業運営には十分である。一学年100名に対し、大・中講義室（240人室1室、180人室1室、160人室2室）を多く配置し、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染収束に伴い対面授業を実施できるようになった場合にも感染対策として余裕のある座席が確保できるように配慮している。各階にラウンジを設け、講義前や講義間の休憩、短時間での会話、勉強、軽食に利用できる。演習室・ゼミナール室は授業の他にも学生に開放し自主学習やグループワーク等に活用できる。学生ゼミ・研究室は3年後期に学生がゼミ・研究室に配属されて、演習や卒業研究等主体的な学びや研究ができるスペースとしている。

場所	階数	定員	室数
浦安・日の出キャンパス			
大講義室	2号館2階	240人	1室
	1号館2階	187人	2室
	2号館3階	180人	1室
中講義室	2号館3階	160人	2室
	2号館2階	120人	2室
	1号館1階	121人	2室
小講義室	2号館3階	80人	2室
	1号館2階	70人	2室
	2号館2階	60人	2室
語学室	1号館2階	37人	3室
演習室	1号館2階	30人	1室
	1号館2階	42人	1室
	1号館3階	48人	2室
	1号館4階	30人	2室
	2号館2～4階	40人	7室
ゼミナール室	1号館2～4階	15人	6室
	2号館5階	12人	3室
	2号館5階	18人	2室
マルチメディア教室	1号館2階	119人	1室
PC演習室	2号館4階	48人	1室

学生ゼミ・研究室	2号館 1、3～5階	20～30人	11室
教員研究室	2号館3～5階	1～4人	18室
本郷・お茶の水キャンパス			
小川講堂	7号館1階	525人	1室
有山登メモリアルホール	7号館13階	252人	1室
さくらキャンパス			
大講義室	3号館3階	658人	1室
中講義室	3号館4階	200人	2室
	3号館5階	120人	2室
小講義室	3号館5階	60～70人	3室
	3号館6階	50人	6室

【資料14】健康データサイエンス学部健康データサイエンス学科  
時間割・使用教室

## (2) 設備の整備

### ①ネットワーク環境

浦安・日の出キャンパス全体をデータサイエンスの実験環境と捉えてクラウド化された教育情報基盤（AI スマートキャンパス）を構築することを目指す。教育コンテンツの円滑な活用・学習ができるように、全館に高速無線 LAN 環境を整備する。

### ②パソコンの持参

本学部では、パソコンを使用した演習科目が多い。各学生は大学が指定したスペックに基づきノートパソコン（Microsoft Office のライセンスは大学から貸与）を入学時に購入して持参し、授業に参加する。浦安・日の出キャンパスには同時に複数台で安定的な接続が可能な Wi-Fi 環境が整備されている。学生のノートパソコンにトラブルが生じた場合等の貸出用パソコンとして、学年当たり 10 台程度を準備する計画である。

### ③バリアフリー対策

講義棟に多目的トイレを各階 1 カ所整備し、男女トイレ内に手摺を最低 1 カ所設置する。教室と廊下との段差を設けず、階段又は傾斜路の上端に近接する廊下等の部分には点状ブロックを敷設する。

体育館にも多目的トイレを整備し、段差を設けず、点状ブロックを敷設する。車椅子使用者用駐車場も整備する。

### 3) 図書等の資料及び学術メディアセンターの整備計画

#### (1) 学術メディアセンターについて

本学の学術メディアセンターは、本郷・お茶の水キャンパスの学術メディアセンターが本館としての機能を持ち、既存3キャンパス（さくらキャンパス、浦安キャンパス、三島キャンパス）にそれぞれ学術メディアセンターを配置している。本学部を設置する浦安・日の出キャンパスには、2号館校舎1階に浦安・日の出キャンパス学術メディアセンターを整備する。浦安・日の出キャンパス学術メディアセンターを整備する前には、1号館校舎図書室を利用することができる。各センターは、ネットワークにより情報を共有し、学内外からの相互貸借の依頼・受付を行っている。浦安・日の出キャンパス学術メディアセンターは延床面積445.1㎡で、閲覧室、普通図書・参考図書コーナー、検索性PCコーナー及びDVD等視聴用PCコーナーを備え、約2万冊収納可能な書架を整備する。学術メディアセンター内には個人のノートパソコンの持ち込みを可能とし、無線LANを利用してインターネット検索が可能な環境を整備する。

#### (2) 図書及び雑誌について

既設キャンパスの学術メディアセンターは、医学・医療・スポーツ・看護・理学療法・診療放射線・国際系を中心に自然科学分野及び人文科学系分野を含め和書・洋書の学術情報を収集しており、既設キャンパス学術メディアセンターの全蔵書数は令和2年度（2020年度）末で297,111冊、うち104,969冊が外国書である。学術雑誌については、人文・社会・自然科学の全分野で、既設キャンパス学術メディアセンターで冊子体5,378タイトルを所蔵している。蔵書について毎年度に定期的な図書・雑誌の整備を行っている。本学部でも既設キャンパス所蔵の図書及び雑誌も利用でき、本学学内専用便や郵送で貸出を行っている。利用が終わった図書及び雑誌についてはどこの既設キャンパスからでも返却が可能な体制となっている。

浦安・日の出キャンパス学術メディアセンターには本学部として完成年度までに一般教養図書をはじめ、医療・スポーツ、情報科学、数理統計及び社会科学分野を中心として図書860冊（内、外国書360冊）、学術雑誌等を順次計画的に整備し、本学部学生の学修に資する。

#### 【資料15】学術雑誌一覧

#### (3) 学術情報の電子化への取り組み

学術情報は、本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンターを中心として、冊子体から電子へと資料媒体の切り替えを進めている。電子ジャーナルを43,549タイトル、電子書籍を11,259タイトル契約しており、リンクリゾルバによる文献情報の

ナビゲートを提供している。これらの多くは全キャンパス・全附属病院のみならず自宅等の学外からも閲覧が可能である。電子情報は学術メディアセンターのウェブサイトを集約しており、「電子ジャーナル・電子書籍リスト」と「蔵書検索」から検索して閲覧できる。

電子ジャーナルは、医学分野の主要データベースである「PubMed」と「医中誌Web」の検索結果にリンクを設定して、雑誌論文へのアクセスの便宜を図っている。購読するジャーナルは定期的に研究室・教員にアンケートを取り、学術メディアセンター運営委員会において見直しを行っている。医学分野の国内誌は、「医書.jp」と「メディカルオンライン」を契約している。

電子書籍は、語学学習図書・就職活動図書・教養図書・参考図書等を契約している。

データベースは、医学・診療支援・スポーツ科学・看護学系のデータベースをはじめとして、人文社会科学・自然科学の幅広い分野を網羅する学術情報全文データベース（「ProQuest Central」、「Academic Search Complete」等）を契約しており、健康データサイエンス学部や国際教養学部のように広範囲にわたる学問分野にも対応できるように整備している。引用索引データベースは「Web of Science」と「Scopus」の両方を契約しており、論文検索の便宜を図っている。また辞典・事典、新聞・雑誌記事データベース等を契約しており、調査・研究活動を支援している。

本学が所蔵していない資料については、他大学図書館との相互協力（国立情報学研究所のNACSIS-ILL、日本医学図書館協会等）により、文献複写や現物貸借の相互協力を行っている。令和2年度（2020年度）の4キャンパス合計の実績は、他大学からの複写依頼が2,290件、他大学への複写依頼が1,929件であり、本学から他大学への提供実績が上回っている。研究の高度化に伴い、国内で入手できない外国文献利用の要望に際しては、海外文献提供サービスの利用が可能である。

#### (4) 閲覧席について

本学部学術メディアセンターには200席の閲覧席を整備する。

1号館及び2号館校舎の各階にラウンジを設置して、自主学習やグループ学習等の様々な学修スタイルにも対応できるようにしている。

### 10. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

本学部の教育研究の拠点は浦安・日の出キャンパスに置くが、一部の授業科目はさくらキャンパスで開講する。本学部のさくらキャンパスにおける授業科目は、1年次前期「スポーツ実技」（必修科目）、同後期「スポーツ健康運動方法論」（選択科目）

の全 15 回のうちそれぞれ半数程度を計画している。

さくらキャンパスでスポーツ系の授業を開講する日は、他の授業もさくらキャンパスで受講でき、学生が 1 日の間にキャンパス間を移動することはない。学生の校地間の移動は、公共交通機関を利用して 70 分程度であるが、JR 新浦安駅に貸切バスを配車して送迎を行う計画である。

なお、スポーツ系の授業はさくらキャンパスのスポーツ健康科学部教員（兼担）と大学院スポーツ健康科学研究科院生がティーチングアシスタントとして授業を運営するため、健康データサイエンス学部の専任教員をさくらキャンパスには配置せず、教員の移動は発生しない。

また、さくらキャンパスには講義室の他に事務室、学術メディアセンター（図書館）、ラーニングコモンズ、学生食堂、ラウンジが設置され、学生は自由に利用できる。

## 11. 管理運営

本学は教育・研究に関して、全学に共通する事項を審議する機関として、順天堂大学大学協議会を設置し、学長を議長とし、各大学院研究科研究科長、各学部学部長、その他を委員として運営している。

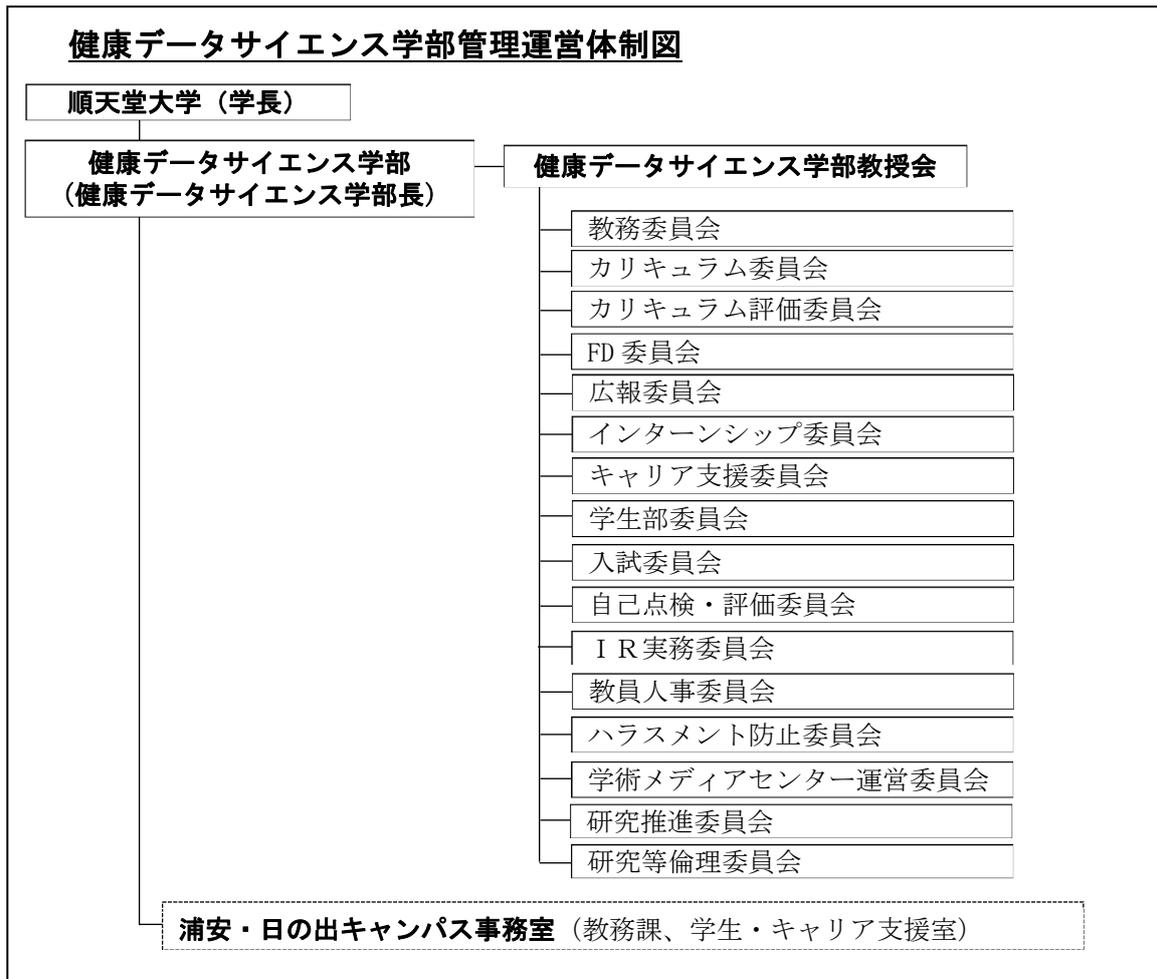
【資料 16】 順天堂大学大学協議会規則

### 1) 健康データサイエンス学部教授会等の組織及び事務組織について

各学部の運営について協議する機関として、各学部に学部教授会を設けている。教授会の組織及び運営等必要な事項について順天堂大学教授会運営規程に定める。

本学部も順天堂大学学則第 37 条規定に基づき教授会を置く。

本学部の管理運営をサポートする事務局は、浦安・日の出キャンパス事務局が担当する。同事務室は浦安・日の出キャンパス全般の管理運営の庶務、各学部の教務事務・授業管理及び教員の教育研究活動支援業務を行うとともに、学生の福利厚生、奨学金等についても担当し、円滑な学生生活を支援する。



## 2) 本学部の管理運営方法

### (1) 教授会

①本学部教授会は次の委員により構成される。

(ア) 本学部長

(イ) 教授（特任教授を含む）及び先任准教授

(ウ) 本学部長があらかじめ学長に諮り教授会の議を経た、本学部を併任している他の教職員（教授、先任准教授又は相当の者）

②教授会は、学長が次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(ア) 学生の入学及び卒業に関する事項

(イ) 学位の授与に関する事項

(ウ) 教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定める事項

③教授会は、前項に掲げる事項のほか、学部の教育研究に関する事項について協議し、学長の求めに応じて意見を述べることができる。

④教授会は毎月1回（8月は除く）開催し、教授会の議長は学部長があたる。

⑤教授会を円滑に運営するために教授会の下に次の委員会を置く。

- (ア) 教務委員会（教務事項・学事に関する事項）
- (イ) カリキュラム委員会（カリキュラムに関する事項）
- (ウ) カリキュラム評価委員会（カリキュラムの評価検討に関する事項）
- (エ) FD 委員会（授業内容と授業方法の改善を図り、教員の資質向上に関する事項）
- (オ) 広報委員会（学部広報、HP 作成、学生の募集活動に関する事項）
- (カ) インターンシップ委員会（インターンシップに関する事項）
- (キ) キャリア支援委員会（学生のキャリア就職活動支援に関する事項）
- (ク) 学生部委員会（学生の福利厚生及び学生生活全般の指導に関する事項）
- (ケ) 入試委員会（入学試験に関する事項、入学試験の実施及び入学者選考に関する事項）
- (コ) 自己点検・評価委員会（自己点検・評価に必要な教育研究目標の設定、教育研究活動の改善、その他に関する事項）
- (サ) IR 実務委員会（学修時間・学修実態調査及び授業評価等の実施・検証に関する事項）
- (シ) 教員人事委員会（教員の募集、採用・昇任の資格審査及び研修に関する事項）
- (ス) ハラスメント防止委員会（ハラスメント防止に関し必要な事項）
- (セ) 学術メディアセンター運営委員会（学術メディアセンターの運営に関する事項）
- (ソ) 研究推進委員会（教員・研究者等の研究活動の推進及び紀要刊行に関する事項）
- (タ) 研究等倫理委員会（倫理指針等による研究内容の科学的及び倫理的側面の審査に関する事項）

各委員会は、原則として月 1 回開催（8 月は休会する）。ただし入試委員会、自己点検・評価委員会、ハラスメント防止委員会は必要に応じ開催する。

## 12. 自己点検・評価

本学では、『内部質保証に関する方針』、『内部質保証に関する規程』及び『自己点検・評価に関する規程』に基づき、教育研究等の状況について、毎年度、自己点検・評価を行っている。

### 1) 実施方法、実施体制、結果の活用

自己点検・評価は、内部質保証の一連のプロセス（前年度の取組から課題を見出し、解決に向けての取組及びスケジュール案の企画・設計(P)、改善に向けた具体的な取組

(D)、取組成果の検証(C)及び次年度に向けての取組の方向性を定める(A)のうち、取組成果の検証(C)に位置づけられる。本学では、「学長」の下に内部質保証の推進に責任を負う組織として「内部質保証推進委員会」を置き、同委員会に内包する形で全学的な自己点検・評価を行う「自己点検・評価運営委員会」を置いている。部門レベル（学部、研究科、医学部附属病院及び大学管理部門）で自己点検・評価を実施し、その結果は「自己点検・評価運営委員会」及び「内部質保証推進委員会」での審議を経て、「学長」に報告される。「学長」は、その報告を受け、改善を要する事項について当該部門に改善の指示を行う体制となっている。当該部門では、必要な場合は「内部質保証推進委員会」の支援を受け、改善計画に沿って改善を実施し、改善結果は「内部質保証推進委員会」を通じて、「学長」に報告されるという改善サイクルとなっている。また自己点検・評価及び内部質保証について、客観性・妥当性・有効性を高めるために、学外有識者からなる「外部評価委員会」による評価を受ける。学長の下で全学的な教学マネジメントが有効に機能するように上述の3つの委員会がそれぞれの役割を果たすことにより、大学全体として適切な点検・評価が実施され、必要な改善活動のサイクルが回り、本学の教育研究等の改善・向上が図られるようになっている。

## 2) 評価項目

評価項目は、公益財団法人大学基準協会の大学基準に則して、(1)大学の理念・目的に関すること、(2)内部質保証に関すること、(3)教育研究組織に関すること、(4)教育課程・学習成果に関すること、(5)学生の受入れに関すること、(6)教員・教員組織に関すること、(7)学生支援に関すること、(8)教育研究環境に関すること、(9)社会連携・社会貢献に関すること、(10)大学運営・財務に関することとしている。

## 3) 結果の公表

自己点検・評価報告書は、冊子として刊行するとともに、本学ホームページにも公開し、社会的説明責任を果たしている。

## 4) 認証評価

学校教育法第109条に定める認証評価については、公益財団法人大学基準協会による大学評価を7年毎に受審している。直近では、2016年に受審し、大学基準適合の認定を受けていた（2017年4月から2024年3月まで）が、2020年2月、医学部入試に関連して、適合認定を取り消された。その後、指摘事項を真摯に受け止め改善に取り組み、2020年10月に追評価を受審し、2021年3月、大学基準適合の認定を受けた（2021年4月から2024年3月まで）。次回の認証評価は、2023年度を受審を予定し

ている。

### 13. 情報の公表

#### 1) 公表の方針・考え方

大学の運営や教育研究活動等に関する情報を、個人情報保護等に配慮した上で積極的に公開することにより、社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い大学運営と教育研究活動の質的向上を図る。また様々な媒体を活用し、タイムリーに正確且つ分かり易く公表することにより、研究成果等を社会に広く還元する。

#### 2) 公表の方法

Web サイトを中心に、SNS、YouTube 等の動画コンテンツ、刊行物の発刊、講演会の開催など、媒体特性を活かした公表を行うとともに、近年は、プレスリリース等による報道機関を通じた広報活動を積極的に推進している。

<https://www.juntendo.ac.jp/>

<https://www.juntendo.ac.jp/corp/news/letter/>

#### 3) Web サイトによる基本情報の公開

本学における教育研究活動等の状況に関する基本的な情報は、(学) 順天堂 Web サイト上に「基本情報 (基本情報)」として公表している。法人全般の基本情報は総務局総務部文書・広報課が情報管理を行い、教学情報は学事部門にある情報戦略・IR 推進室が情報管理を行い、学校法人として最新情報の提供を正確且つ迅速に情報発信を行っている。

(掲載 URL <https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information/>)

以下の情報については上記本学 Web サイトの各項目で情報提供している。

##### (1) 情報公開 (基本情報)

###### ①教育研究上の基礎的な情報：

「設置学部・大学院の名称等」

「学部・大学院の教育研究上の目的」

「組織図－順天堂組織機構図」

「求める教員像および教員組織の編制方針 (順天堂大学・大学院・学部)」

「教職員数－教職員数、教員年齢区分」

「学則 (大学・大学院)－順天堂大学学則、順天堂大学大学院学則」

「寄附行為－学校法人順天堂寄附行為」

「役員名簿」

「役員報酬等の支給の基準－学校法人順天堂役員報酬及び役員退職金支給規程」

②各キャンパスの教育研究施設：

「教育研究等環境の整備に関する方針」

「建物耐震性能（耐震化率）」

「各キャンパスの教育研究施設配置図」

「主な交通手段」

「学術メディアセンター情報」

③授業料・入学金等学生が納付する金額：

「授業料等納付金－2021年度授業料等納付金」

「入学試験検定料（大学院 入学案内・募集要項）」

「入学試験検定料（学部 入学案内・募集要項）」

「入学金・学費等（大学院）」

「入学金・学費等（学部）」

(2) 基本情報（情報公開）修学上の情報

①教員組織、各教員が有する学位及び業績：

「大学院」

「学部」

「研究者情報データベース－順天堂大学研究者情報データベース、researchmap」

・順天堂大学研究者情報データベースの掲載 URL：

<https://www.juntendo.ac.jp/graduate/kenkyudb/>

各教員の学位や教育・研究業績については、データベース化し、詳細に情報収集を行い、「順天堂大学研究者情報データベース」を稼働している。このデータベースの情報提供項目は、学歴、取得学位、学外活動、現在の研究課題、所属学会・委員会等のプロフィール、著書・論文、受賞学術賞及び著書・論文以外の業績の研究業績と教育実績であり、教員自身が Web サイト上で随時自由に業績情報を更新し、これを蓄積することが可能である。本学の教育研究業績情報は情報量として豊富で精度も一段と向上している。同内容は、本学 Web サイトで公表されており、常時閲覧可能である。

・順天堂大学学術情報リポジトリの掲載 URL：

[http://library.med.juntendo.ac.jp/il4/meta\\_pub/G00000002gakui](http://library.med.juntendo.ac.jp/il4/meta_pub/G00000002gakui)

本学及び本学構成員の教育・研究成果に関する学術情報については、それらを学内外に公開する「機関リポジトリ」として、「順天堂大学学術情報リポジトリ」を Web サイトで公開している。本学教員が教育・研究に係る成果物を容易に利用できる環境を提供するとともに、本学の教育・研究内容及びその成果を広く

世界に発信することを目的としている。同サイトでは、ア) 研究報告、イ) 学術論文、ウ) 学位論文(博士論文)、エ) 順天堂醫事雑誌、オ) その他の教育研究成果等が公開されている。

②学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準：

「3つのポリシー策定の基本方針」

「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」

「アセスメント・プラン(評価の方針)」

「学修の成果に係る評価と卒業又は修了の認定に当たっての基準」

③授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画：

「カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)」

「授業科目、年間授業計画(シラバス等)」

「単位の履修登録上限」

「実務経験のある教員等による授業科目」

「高等教育の修学支援新制度の機関要件更新確認申請書—機関要件の更新確認申請書様式第2号」

④入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業(修了)者数：

「アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)」

「入学者数・収容定員・在学者数」

「入試結果—学部、大学院」

「卒業(修了)者数」

「進学者数・就職者数」

⑤学生の修学、進路選択(進学・就職者数)及び心身の健康等に係る支援：

「学生の支援に関する方針—学生の支援に関する方針・障がいのある学生の支援に関する基本方針」

「学生の修学支援」

「学生の進路選択支援」

「学生の心身の健康等に係る支援」

「在学生(新入生/上級生)・最終学年アンケート調査結果」

「学生が修得すべき知識及び能力に関する情報(主要科目の特徴)(科目ごとの目標)」

⑥学生の状況(入学者推移、退学・除籍者数・中退率・留年者数、国際交流情報)：

「学生に関する情報—学生の状況(入学者推移、退学・除籍者数・中退率・留年者数、国際交流情報)」

⑦その他の情報(産学官連携等)：

「社会連携・社会貢献に関する方針」

「大学協力協定締結状況（海外研究機関）－国際交流活動」

「順天堂大学における大学間連携－大学間連携一覧、順天堂大学における主な大学間連携」

「順天堂における社会貢献－イベント・講演会、活動報告、地域連携、高大連携」

「産学官連携に関する取組－規程、順天堂大学産学官研究連携推進室組織体制、順天堂大学における産学官連携情報（特許出願状況）、共同研究講座・寄付講座一覧、民間企業・外部機関連携」

「特許支援リンク先（全国の支援・助成機関、政府機関）」

(3) 基本情報（情報公開）財務情報：

「財務情報（令和2年度）」

(4) 格付投資情報センター（R&I）による格付

(5) 事業報告：

「順天堂大学ガバナンス・コード、事業報告書」

(6) 大学認証

掲載 URL：<https://www.juntendo.ac.jp/university/about/hyoka.html>

「認証評価」

「内部質保証」

「自己点検・評価」

「外部評価」

(7) 各種方針

掲載 URL：<https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/policy.html>

「3つのポリシー策定の基本方針」

「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

「アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）」

「アセスメント・プラン（評価の方針）」

「内部質保証に関する方針」

「求める教員像および教員組織の編制方針」

「学生の支援に関する方針－学生の支援に関する方針、障がいのある学生の支援に関する基本方針」

「教育研究等環境の整備に関する方針」

「社会連携・社会貢献に関する方針」

「管理運営方針」

#### 4) Web サイト、SNS、プレスリリースの積極的活用

##### (1) オウンドメディア

2つのオウンドメディア（「CO-CORE」，「JUNTENDO SPORTS」）を統合し、新たなオウンドメディアとして「Good Health Journal」(\*1)を開設して、順天堂が180年余にわたり蓄積してきたナレッジを発信し、全ての人に「よりよい健康」を考えるきっかけを創出するWebサイトとして運営している。SDG3（目標3「すべての人に健康と福祉を」）を通じて、世界が抱えるあらゆる課題に挑む）、SPORTS+（スポーツの順天堂が誇るアスリートや専門家の活躍からスポーツ分野の最先端を知る）、SPIRIT（常に他人を思いやり、理解し、敬う「仁」の精神を原動力に活躍する順天堂人に学ぶ）を軸に特徴ある記事を多数発信している。記事本数は150本超、月間閲覧数は8万回超となっており、大学のオウンドメディアとして外部からも高い評価を受けている。

(\*1) <https://goodhealth.juntendo.ac.jp>

##### (2) SNS

学校法人順天堂として、Facebook、Twitter、LINE、YouTube、Instagramにアカウントを持ち、積極的に活用している。特にYouTubeを活用した動画・映像による広報展開に注力している。順天堂ならではの「自宅でできる運動プログラム」「様々な足のリハビリ・セルフエクササイズ」「医療で用いるやさしい日本語」「アスリートトーク」「研究ブランディング事業」等のコンテンツを充実させ、動画本数は100本を超える。現在の公式チャンネル登録者数は9千人(\*2)に迫り、全国大学のチャンネル登録者数トップ10に位置しており、有効な広報ツールとして運営している。

(\*2) 直近1年間でチャンネル登録者数を7千人以上伸ばし、増加率は全国トップクラス。年間視聴回数も188万回と大きく伸ばしている。

##### (3) プレスリリース

広く社会に情報公開し、研究成果の社会還元を実現する観点から積極的にプレスリリースを行っている。本学の医学・医療系リリースは、研究成果を中心に毎年増加しており、発信数は全国大学でトップクラスにある（2020年度の発信数は107件）。

#### 5) 定期的に刊行している発行物

##### (1) 事業報告書の作成

本学の各年度の事業内容について年度毎に取りまとめ「事業報告書」として作成し、学内の各地区で説明を行うとともに、学内外関係者向けに Web サイト上で公表している。

## (2) 大学案内の発行

毎年度、大学案内を発行している。学是・理念・学風、大学院研究科・専攻及び学部・学科の概要、教育・研究活動の特色、医学部附属病院の概要、主な施設・設備、学生のキャンパスライフ、その他のトピックス等、大学に関する情報を詳細かつ体系的に公表し、これらの情報を本大学ホームページにも掲載している。

## (3) 広報誌の発行

学内向け広報誌として「順天堂ニュース」を月次及び必要に応じて臨時に発行し、学内各部署に配布するとともに、学内ポータルサイト上でも閲覧を可能としている。

また法人運営、大学院研究科、学部及び医学部附属病院の活動や取組内容等について年 6 回「順天堂だより」を刊行し、本学教職員、学生、学生保護者、卒業生、関係教育研究機関等へ配布するとともに、Web サイト上で公開している。（毎号：約 10,000 部発行）

海外向け広報の一環として、グローバル広報誌「Juntendo NEWS」を英文・中文の二言語で作成し、それぞれ英語版・中国語版 Web サイト上で公開している。

## (4) 順天堂醫事雑誌の発行（JUNTENDO MEDICAL JOURNAL）

1875 年創刊の順天堂醫事雑誌は、順天堂医学会が年 6 回発行する査読済みの医学雑誌である。2014 年以降は英文誌となり、学内外から投稿される基礎・臨床医学分野の他、スポーツ医学などの研究成果を、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナルプラットフォーム「科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）」でオンラインジャーナルとして公開している。印刷誌は約 350 部を学内教職員をはじめ、他大学図書館などに配布している。

## 6) 講演会・公開講座等の開催

大学院研究科・学部・医学部附属病院が主催する講演会及び公開講座を開催している。教育・研究及び臨床活動についての最新の情報を、新型コロナウイルス感染拡大期間中ではオンライン配信も活用しながら広く提供している。

## 14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 本学では、研究・教育に関して全学に共通する事項を審議することを目的として学長を議長とする大学協議会を設置している。大学協議会は全学的な教育施策の企画及び教育活動の継続的な改善の推進と支援に取り組んでおり、各部門（大学院研究科・学部）の特性に応じたFD支援として、教育課程の編成に係る全学的な方針の審議や教員の教育内容・授業方法の改善についての検討を行っている。

平成25年度には全学FDテーマとして中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012年8月28日)についての理解を促すため、平成25年9月12日に本学学長(現学長特別補佐)が本学の現状と今後の取組に関する講演を行ない、同年11月22日に納谷廣美大学基準協会特別顧問から講演を受けた。その後主な研修として平成28年7月22日には、大学設置基準等の改正(平成29年4月1日)によりSDが義務されることから、大学職員としての業務を自己点検し、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営が図れるように、必要な知識及び技能を習得、その能力及び資質を向上させるため「高大接続改革について」濱口太久未文部科学省高等教育局主任大学改革官から講演を受け、平成30年11月30日には、沖大幹国際連合大学上級副学長から、「SDGsをどう大学経営に生かすのか」、令和元年11月29日には小林直人愛媛大学学長特別補佐から「大学職員としてアクティブラーナーになる」の講演を受け、令和2年度には、アフターコロナ・ウィズコロナ時代を思案し、金子浩明グロービス経営大学院教授から「①医療の高度化への対応、②医療・保健・健康・スポーツの総合的な価値提案、③これらを推進するための教育基盤強化」について講演を受け、大学職員がこれからの大学改革へ向け、どのように業務にあたるべきかを検証するために、教員及び職員が出席した。

平成25年以降、以下の通り研修を開催し、教員及び職員が出席し、学長主導のFD体制に基づき授業内容方法等の改善に向けての意識の共有化を図っている。

	年 月 日	演題及び演者
第1回	平成25年9月12日	文科省「大学改革実行プラン」、とくに大学教育の質的転換について 木南英紀(前学長・現学長特別補佐)
第2回	平成25年11月22日	中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」 納谷廣美氏(大学基準協会特別顧問(前会長)、明治大学学事顧問(前学長))
第3回	平成27年3月27日	大学のガバナンス改革の推進～学校教育法改正に伴う学則の変更等について～ 木南英紀(前学長・現学長特別補佐)
第4回	平成27年11月5日	大学教育の質の保証について 村田直樹氏(文部科学省大臣官房付・桜美林大)

		学大学院特任教授)
第5回	平成28年7月22日	高大接続改革について 濱口太久未氏 (文部科学省高等教育局主任大学 改革官)
第6回	平成29年12月4日	大学力の強化とその評価について 山本進一氏 (名古屋大学名誉教授・岡山大学名 誉教授)
第7回	平成30年11月30日	SDGsをどう大学経営に生かすのか 沖 大幹氏 (国際連合大学上級副学長、国際連 合事務次長補、東京大学総長特別参与、国際高 等研究所サステナビリティ学連携研究機構教 授)
第8回	令和元年11月29日	大学職員としてアクティブラーナーになる 小林 直人氏 (愛媛大学学長特別補佐、教育学 生支援機構副機構長、教育企画室長、医学部・ 総合医学教育センター長、教授)
第9回	令和2年度 (6/24, 7/8, 7/31, 8/21)	①医療の高度化への対応、②医療・保健・健 康・スポーツの総合的な価値提案、③これらを 推進するための教育基盤強化」について 金子 浩明氏 (グロービス経営大学院教授)

(2) 各学部・各大学院研究科において、FD委員会 (FD推進委員会) を設置し、教員の教育研究に係る資質の向上を図り、教育内容及び授業方法等の改善に継続的に取り組んでいる。

【資料17】各学部・各大学院研究科におけるFD活動状況

本学部においても次のような取組を行っていく。

①FD委員会の編成

教授会の中にFD活動を推進する組織としてFD委員会を配置する。FD委員会は原則として毎月1回開催し、FD委員会委員が出席する。

②FD研修会の開催

全ての専任教員を対象にFD研修会を年1~2回開催し、大学の教育改革に詳しい学外専門家を招いて講演会を開催し、FD活動の推進につながる知識情報の獲得等を図る。

③FDワークショップの開催

FDワークショップを年1~2回開催し、教員や外部講師による教育方法の実践報告や授業方法の改善・工夫に関する新たな提言等を行い、グループワークによる協議を行う。協議内容について事後にアンケートへの回答を求め、FD委員会に集約す

る。

#### ④シラバスの整備

学生の履修指導に効果が上がるように毎年度シラバスを作成し、効果的に活用する。教務委員会が中心となりシラバスの記載内容を点検する。授業担当教員は毎年度各自のシラバス内容の実践と評価を実施し、教務委員会の意見を参照にしながらシラバス記載内容を吟味した上で作成する。シラバスには授業科目の概要、ディプロマ・ポリシーとの関連、到達目標、講義内容、授業方法、予習・復習、成績評価の方法と基準、教科書及び参考図書等を記載する。

#### ⑤授業評価

授業内容の改善を図るために「学生による授業評価アンケート調査」を毎回の授業毎又は学期毎に実施し、集計結果をFD委員会に報告する。FD委員会は評価結果内容について精査を行い、課題・問題点を調査分析し、教授会に報告するとともに、改善提案を行う。授業評価結果については授業担当教員にフィードバックし、改善を要する場合には速やかに学部長より当該教員に対し改善のための指導を行なう。将来的には、各教員が自分の担当する科目の成績評価と他の教員担当科目の評価を比較し、教員が自らの授業の客観評価を行うことが可能となるように授業評価アンケートの集計結果等をWebサイト上での公開することを検討する。

#### ⑥成績評価

既設学部では、GPA制度が導入されており、本学部においても試行的に導入する。本学部では、学生の学修到達度についてGPA得点を判定基準の一つとして検証し、学生指導の基準として試行的に利用する計画である。GPA制度を有効に活用・機能するためには、厳格な成績評価及び各授業科目における成績評価の平準化が前提となることから、FD活動の一環として科目毎、教員毎の成績評価状況を定期的に表示して、本学部内において統一した基準に基づいて成績評価が行われるように取り組んでいく。

#### ⑦教育研究活動の公表

教員の研究活動、研究会への参加、対外的に公表された研究成果、学会における活動状況、公共機関における社会的な活動状況等をWebサイト上に「研究者情報データベース」として公表する。

また、研究組織毎にも諸活動の情報を集約し、ホームページで公表している。

(<https://www.juntendo.ac.jp/university/research/organization.html>)

本学では定期的に「順天堂醫事雑誌 (Juntendo Medical Journal)」を刊行している。教員の研究活動成果を発表するツールとして活用する。本学部において定期的に紀要を刊行することを計画する。

(3) 教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るための大学職員の研修等の取組  
本学の事業運営に当たってその基盤となる専任職員の育成及び能力開発については、人事部を中心に取り組んでいる。役職別実務研修（評価者研修、マネジメント研修、主任・係長・部課長別研修等）及び課題別研修（女性職員活性化研修、SD 英語研修等）を継続的に開催し、職員の能力向上を図っている。

選抜制階層別研修の他に、eラーニングにて技術・技能のスキルアップ、資格取得のためのステップアップ等自己の目標に合わせて選択できるよう多様なコースを提供し、希望者全員が自発的にスキルアップを図れる環境を設けている。

グローバル化への対応として学内英語研修に加え、海外研修を実施している。平成 30 年 1 月にアメリカに 6 名教職員を派遣し、アメリカの病院経営と医療テクノロジーに関し最新情勢を体験した。また、平成 31 年 9 月、日本私立医科大学協会主催の海外研修に参加（概ね 2 年に 1 回開催、本学から 2～5 名参加）し、医師 4 名、事務職員 3 名を派遣し、アメリカの医療の現況を視察・調査した。

#### 【資料 18】職員研修一覧

## 15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### 1) 教育課程内の取組について

本学部教育課程の『一般教養科目』に特徴のある選択科目を配置することにより、社会生活や職業生活に求められる人間に対する理解、社会に関する知識、外国語能力の向上を図り、知的活動や職業生活及び社会生活を維持し社会的・職業的自立を図るために必要となる知識・思考力・技能・態度の修得を目指す。『キャリア支援』に 1 年次後期「キャリアデザイン論」を必修科目として配置し、早い段階からキャリアについて自覚し、主体的に自らの職業観を培い、自立した社会人として必要な資質・能力を形成していくための基盤形成の支援を行う。

『専門科目』に配置する演習科目において、グループワークを行うことにより、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力の向上や態度を身につけるとともに、データサイエンス人材としての実践力を育成する。「健康データサイエンス実践論」「スポーツデータサイエンス実践論」において企業等で活躍する実務家を招いて講義及び学生との議論を通して実社会の現実を理解するとともに、企業等との連携による「インターンシップ」において社会の現場を体験することにより社会性を養い職業人としての自覚を持たせ、自立した社会人として必要な資質能力を形成していくための基盤形成を目指す。

### 2) 教育課程外の取組について

本学では、学生の就職に関する包括的な支援・援助に加え、学生の適性を活かした個別就職指導を行うため、「就職支援センター」を設置している。既設のキャンパスには、本郷・お茶の水キャンパス就職支援室及びさくらキャンパス就職支援室（さくらキャンパス事務部就職課）（以下、併せて「就職課等」という。）を設置し、積極的な情報収集ときめ細やかな情報共有を図り、全学的な就職支援体制を構築している。浦安・日の出キャンパス内にも学生・キャリア支援室を設置し、本学部キャリア支援委員会と就職支援等を計画的に対応し、学生が自ら考えて能力と適性に応じた進路を選択できるように個別に指導を行っていく。

本学部学生の就職支援活動については、就職ガイダンスによる進路指導、進路相談、面接試験対策講座やマナー・身だしなみ講座等を実施するとともに、企業の人事担当者を招き企業説明会を開催する。

学生・キャリア支援室は、就職課等と連携を取り、学部を越えて学生に役立つ就職情報の交換やイベントの共同開催を進め、学生の支援活動を展開していく。就職課等では企業情報・求人情報の提供、就職ガイダンスや就職支援講習会・セミナーの企画・開催、公務員試験受験対策講座の実施、個人模擬面接等を実施している。スポーツ健康科学部、国際教養学部及び保健医療学部は、(株)ディスコが提供するシステム「キャリアタス UC」（学生向けの名称は「順大就職 NAVI」）を共同で導入しており、本学の学生を採用したい企業が当システムに求人情報をインプットすることにより、学生がそれらを常時閲覧でき、エントリーまでを可能とすることで本学学生を採用する意欲の高い企業と学生のマッチングの向上を図っている。また、このサイトは求人票・企業検索の他、インターンシップ検索、体験談検索の機能、大学からの情報も掲載可能であり、本学部も同様に就職活動に役立つタイムリーで精度の高い情報提供に努め、学生が有効に利活用できるように整備する。

スポーツ健康科学部及び国際教養学部において令和3年度卒業生のうち就職希望者の企業等就職率は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う求人数の減少にもかかわらず90%を超える実績をあげている。本学部においてもキャリア支援委員会及び学生・キャリア支援室が一連のノウハウを共有し、学生のキャリア意識の向上に向けて支援を推進する。

### 3) 適切な体制の整備について

本学部はキャリア教育・就職活動支援体制として教授会の中にキャリア支援委員会を組織するとともに、大学に設置されている就職支援センターの学部内組織として浦安・日の出キャンパス事務室内に学生・キャリア支援室を設置し、組織的に指導・支援に取り組む。キャリア支援委員会及び学生・キャリア支援室は、教員と事務職員が連携して進路指導、就職相談・指導、各種就職関連講座、就職先開拓等の就職支援活動に取り組む。就職活動に対する不安や悩みを個別に相談できるように1号館校舎1

階にキャリア支援室を配置し、キャリア支援委員会教員及び学生・キャリア支援室のスタッフがきめ細かく指導・助言を行う。